史跡斎宮跡　平成22年度発掘調査概報

二〇一二年三月

斎宮歴史博物館

史跡 斎宮跡

平成22年度発掘調査概報

2012年3月

斎宮歴史博物館

第 171 次調査出土　平仮名「いろは歌」墨書土器（内面）

第 171 次調査出土　平仮名「いろは歌」墨書土器（外面）

序

三重県および斎宮歴史博物館では、現在史跡斎宮跡東部地域において平成26年度の完成を目指し、歴史公園整備事業を進めています。平成23年度には、現地での造成工事も始まり、シンポジウムや勉強会が開催されるなど、周辺地域でも整備に向けた体制づくりが進められています。

今回報告する発掘調査は、歴史公園整備に先立ち、柳原地区周辺で行われたものです。第167・168次調査では柳原区画北東部および東西区画道路側溝を明らかにしました。第171次調査では、内院推定地である牛葉東区画から、ひらがなで書かれた「いろは歌」墨書土器が出土し、斎宮にいち早く都の文化が持ち込まれていた様子が明らかとなりました。こうした成果は、地元明和町をはじめ、県民や斎宮跡を訪れる皆様に還元し、積極的に情報発信していきたいと考えております。

史跡斎宮跡の保存および調査研究・整備活用にあたり、貴重なご意見やご指導を頂きました文化庁、斎宮跡調査研究指導委員他多くの方々、並びに発掘調査にあたり、様々なご配慮・ご協力を頂きました国史跡斎宮跡協議会をはじめ地元の皆様に厚く御礼申し上げます。

最後とはなりましたが、2011年7月11日に、斎宮跡調査研究指導委員の町田章先生がご逝去されました。町田先生は、都城制をはじめとして日本の考古学界に大きな足跡を残すとともに、斎宮跡の解明についてもご尽力されました。ここに、これまでの感謝とともに、謹んで哀悼の意を表します。

2012（平成24）年3月

斎宮歴史博物館

館長　小田秀雄

例　　言

1　本書は、斎宮歴史博物館が平成22年度に国庫補助金を受けて実施した史跡斎宮跡発掘調査（第167・168・169・171次調査）の概要をまとめたものである。

2　明和町が、国庫補助金の交付を受け、調査主体となって実施した史跡現状変更等に伴う緊急発掘調査の第170次調査報告書は、別途明和町が刊行している。

3　遺構の実測にあたっては、日本測地系による国土調査法（旧国土座標）の第Ⅵ座標系を基準とし、方位は旧国土座標による座標北で示している。また、建物の軸方位については、全て北を規準として表記している。

4　遺構時期区分の指標となる土器の分類と時期認定については、「斎宮跡の土器」（『斎宮跡発掘調査報告Ⅰ』斎宮歴史博物館、2001年）による。

5　遺構表示記号は次のとおりである。

ＳＢ：掘立柱建物　ＳＤ：溝　ＳＦ：道路　ＳＫ：土坑　Pit：柱穴、ピット

6　遺物実測図は基本的に実物の４分の１で行っているが、一部の遺物は原寸大で掲載している。遺物写真は縮尺不同である。

7　土層および出土遺物の色調は、日本色研事業株式会社発行『新版標準土色帖』（2004年度版）に拠る。施釉陶器の色調については一部、大日本インキ化学工業株式会社発行『日本の伝統色』第５版（1989年）を用いて補っている。

8　遺物の漢字表現については、材質の差による漢字の偏に必ずしも従うことなく、「わん」は「椀」、「つき」は「杯」を用いている。ただし、参考文献などからの引用の場合にはこの限りではない。

9　本書の執筆は、新名強があたり、編集は調査研究課で行った。また、発掘調査および資料整理については、倉田直純・大川勝宏・角正芳浩・杉原泰子・八木光代・水木夏美・大橋由紀・山本達也が補佐した。

10　本概報を作成するにあたって、下記の方々のご教示を得た。謹んで御礼申し上げます。（50音順・敬称略）

所　京子（岐阜聖徳学園大学名誉教授）

藤本孝一（龍谷大学客員教授）

目　次

Ⅰ　前言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
Ⅱ　第167次調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
Ⅲ　第168次調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
Ⅳ　第169次調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
Ⅴ　第171次調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・51

挿図目次

第Ⅰ－1図　史跡斎宮跡位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
第Ⅰ－2図　平成22年度発掘調査区位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
第Ⅰ－3図　斎宮跡方格地割区画名称図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
第Ⅰ－4図　史跡斎宮跡における大地区表示図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
第Ⅱ－1図　第167次調査　グリッド図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
第Ⅱ－2図　第167・168・169・171次調査区位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・8
第Ⅱ－3図　第167次調査　遺構平面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
第Ⅱ－4図　第167次調査　土層断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
第Ⅱ－5図　第167次調査　ＳＢ10164～10171平面図・・・・・・・・・・・・・・・・14
第Ⅱ－6図　第167次調査　ＳＢ10154土器出土状況図・・・・・・・・・・・・・・・・14
第Ⅱ－7図　第167次調査　ＳＢ10152土器出土状況図・・・・・・・・・・・・・・・・14
第Ⅱ－8図　第167次調査　出土遺物実測図①・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
第Ⅱ－9図　第167次調査　出土遺物実測図②・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
第Ⅲ－1図　第168次調査　グリッド図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
第Ⅲ－2図　第168次調査　遺構平面図・土層断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・30
第Ⅲ－3図　第168次調査　ＳＫ10248土器出土状況図・・・・・・・・・・・・・・・・31
第Ⅲ－4図　第168次調査　ＳＫ10247土器出土状況図・・・・・・・・・・・・・・・・31
第Ⅲ－5図　第168次調査　出土遺物実測図①・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
第Ⅲ－6図　第168次調査　出土遺物実測図②・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
第Ⅲ－7図　第168次調査　出土遺物実測図③・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
第Ⅲ－8図　第168次調査　出土遺物実測図④・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
第Ⅳ－1図　第169次調査　グリッド図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48
第Ⅳ－2図　第169次調査　遺構平面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48
第Ⅳ－3図　第169次調査　土層断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48
第Ⅳ－4図　第169次調査　出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48
第Ⅴ－1図　第171次調査　遺構平面図・土層断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・51
第Ⅴ－2図　第171次調査　出土遺物実測図①・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53
第Ⅴ－3図　第171次調査　出土遺物実測図②・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・54
第Ⅴ－4図　第171次調査　平仮名「いろは歌」墨書土器赤外線写真・実測図・・・・・・59

写真図版目次

巻　頭　第171次調査出土　平仮名「いろは歌」墨書土器(内面)／　同(外面)
Ⅱ－1　第167次調査遺構(1)　調査区全景(北から)／調査区全景(南西から)・・・・・・・・・・・・23
Ⅱ－2　第167次調査遺構(2)　ＳＢ10154（西から）／ＳＢ10154柱穴土器出土状況(東から)・・・・・24
Ⅱ－3　第167次調査遺構(3)　ＳＢ10165（西から）／ＳＢ10159・10160（西から)・・・・・・・・・・25
Ⅱ－4　第167次調査遺構(4)　ＳＢ10152柱穴土器出土状況(東から）／ＳＥ10210（南から）・・・・・26
Ⅱ－5　第167次調査遺物(1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
Ⅱ－6　第167次調査遺物(2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
Ⅲ－1　第168次調査遺構(1)　調査区全景(北から）／ＳＢ10241～10245（西から)・・・・・・・・・40
Ⅲ－2　第168次調査遺構(2)　ＳＫ10248土器出土状況(北から）／同完掘状況(東から)・・・・・・・41
Ⅲ－3　第168次調査遺構(3)　ＳＫ10247土器出土状況(西から）／同完掘状況(南から)・・・・・・・42
Ⅲ－3　第168次調査遺構(4)　ＳＫ10249～10252（南から）／ＳＤ10254・10255（西から)・・・・・43
Ⅲ－5　第168次調査遺物(1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44
Ⅲ－6　第168次調査遺物(2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
Ⅲ－7　第168次調査遺物(3)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・46
Ⅳ－1　第169次調査遺構(1)　調査区全景(北から）／調査区全景(南から)・・・・・・・・・・・・49
Ⅳ－2　第169次調査遺構(2)・遺物　調査区北半部(西から）／出土遺物・・・・・・・・・・・・・50
Ⅴ－1　第171次調査遺構(1)　調査区全景(南から）／調査区全景(西から)・・・・・・・・・・・・60
Ⅴ－2　第171次調査遺構(2)　ＳＤ10117～10119（東から）／同土層断面(東から)・・・・・・・・61
Ⅴ－3　第171次調査遺物(1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・62
Ⅴ－4　第171次調査遺物(2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・63
Ⅴ－5　第171次調査遺物(3)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・64

表目次

第Ⅰ－1表　平成22年度　発掘調査一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
第Ⅱ－1表　第167次調査　掘立柱建物一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
第Ⅱ－2表　第167次調査　遺構一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
第Ⅱ－3表　第167次調査　遺物観察表(1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
第Ⅱ－4表　第167次調査　遺物観察表(2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
第Ⅲ－1表　第168次調査　掘立柱建物一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
第Ⅲ－2表　第168次調査　遺構一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
第Ⅲ－3表　第168次調査　遺物観察表(1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
第Ⅲ－4表　第168次調査　遺物観察表(2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
第Ⅳ－1表　第169次調査　遺物観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
第Ⅴ－1表　第171次調査　掘立柱建物一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52
第Ⅴ－2表　第171次調査　遺構一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52
第Ⅴ－3表　第171次調査　遺物観察表(1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55
第Ⅴ－4表　第171次調査　遺物観察表(2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・56
第Ⅴ－5表　第171次調査　遺物観察表(3)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・57

Ⅰ　前　言

1　調査の経緯と概要

史跡斎宮跡は、後に斎宮歴史博物館が建設された古里地区での宅地開発計画に伴い昭和45年に発掘調査が始まり、文化庁の補助事業として昭和48年から開始した範囲確認調査を経て、昭和54年3月27日に国史跡に指定された。県は史跡指定に伴い斎宮跡調査事務所を設置して発掘調査に当たり、平成元年度からは10月に開館した斎宮歴史博物館が史跡解明のための計画調査を継続して実施している。

斎宮跡の発掘調査では、史跡西部に所在すると想定されてきた飛鳥・奈良時代の初期斎宮跡を解明することが課題であるほか、史跡東部に存在した平安時代の斎宮跡中枢部の解明も重要な課題である。

近年、地元からも史跡東部の整備を望む声が高まってきたことから、平成18年度に史跡整備の在り方検討会を開催し、柳原区画を中心とした史跡東部における整備の方向が示された。そして、平成22年３月に『史跡斎宮跡東部整備基本計画書』が策定され、平成26年度(一部は平成27年度)の完成を目指し、平成23年度からは現地での造成工事に着手している。

発掘調査

上記の課題を受け、平成19年度から柳原区画および周辺地域の実態解明を重点的に進めることとなった。平成22年度は、柳原区画で約537㎡、隣接する下園東区画で239㎡、御館区画で71㎡、牛葉東区画で37㎡の調査を実施した。

柳原区画では、これまでに第8－10・10・20・28・143・152・153・157・159・165－1・165－2次調査が実施され(第Ⅰ－４図参照)、古代伊勢道(奈良古道)や区画道路のほか、区画の中央部から南部にかけて庇をもつ大型の掘立柱建物が複数棟確認されている。特に中央部で確認された四面庇建物は、ほぼ同一場所で5回建替えられたことが判明しており、平安時代前葉には、三面庇建物や東面庇建物を伴う儀礼的空間が形成されていたと考えられる。

今回は、柳原区画北東部の遺構状況を確認するため、第167次調査を行った。また、柳原区画の北側に隣接する下園東地区では、区画道路の北側溝および区画南部の遺構状況を確認するために第168次調査を、柳原区画の西側に隣接する御館区画では東西方向の区画道の状況を確認するため第169次調査を行った。また、牛葉東区画では、昨年度に引き続き平安時代後期の区画溝および遺構状況を確認するために第171次調査を実施した。

整備

史跡東部の整備に向けて『斎宮跡調査研究指導委員会』の課題別部会として設置した学識経験者・地元住民等８名の委員から成る『斎宮跡整備・活用検討会』において、柳原区画の調査と併行して、整備・活用に関する骨子案を検討し、総括を行った。

発掘調査現場の公開・活用

近年斎宮歴史博物館では、史跡への来訪者増加や魅力の向上を目標として、発掘調査現場の積極的な利活用を行っている。具体的には、発掘調査見学者への随時公開・説明、ホームページを通じた情報発信を行うとともに、現地説明会や夏休み子ども体験発掘教室、学校団体等の体験発掘、大人向けの発掘体験ウィークなどを開催している。

2　調査体制

史跡斎宮跡の調査・整備に関する業務は、斎宮歴史博物館調査研究課が担当した。当報告に関わる組織は以下の体制で行った。

平成22年度

倉田直純(専門監兼課長)
大川勝宏(主幹)
新名　強(技師)
角正芳浩(技師)
山本達也(臨時技術補助員)

平成23年度

泉　雄二(副参事兼課長)
大川勝宏(主幹)
新名　強(主査)
永谷　豊(技師)

3　斎宮跡調査研究指導委員会

斎宮跡の調査・整備について指導・助言を得るため、平成22年8月3日、平成23年1月21日の2回、委員会を開催し、第167・168・169・171次調査と今後の整備について指導を得た。指導委員の方々は下記のとおりである。(五十音順・敬称略)

浅野　聡(三重大学准教授)
金田章裕(人間文化研究機構機構長)
佐々木恵介(聖心女子大学教授)
鈴木嘉吉(元奈良国立文化財研究所長)
所　京子(岐阜聖徳学園大学名誉教授)
八賀　晋(三重大学名誉教授)
増渕　徹(京都橘大学教授)
町田　章(前奈良文化財研究所長)
渡辺　寛(皇學館大学名誉教授)
綿貫友子(大阪教育大学教授)

4　斎宮跡整備・活用検討会

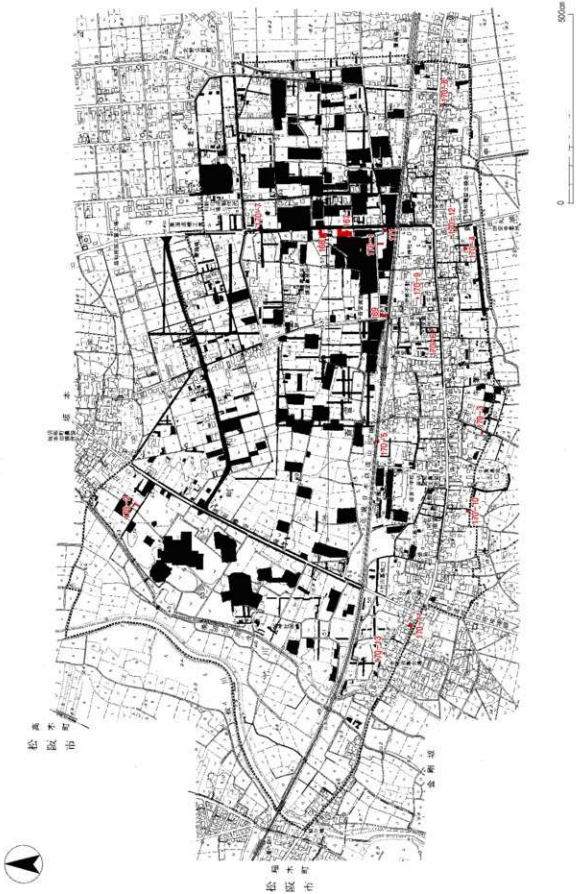
史跡東部の整備・活用に関し、指導・助言を得るため、平成22年12月14日、平成23年3月16日の2回、検討会を開催し、史跡東部整備事業における基盤整備実施設計・復元建物基本設計案についての検討を行った。また、整備についてはソフト面を重視した住民参画についてロードマップを示し、検討を行った。平成19年から4カ年にわたって行ってきた成果を総括し、当検討会を解散した。検討委員の方々は下記のとおりである。(五十音順・敬称略)

浅野　聡(三重大学准教授)
作野かをる(国史跡斎宮跡保存協会副理事長)
島田敏男(奈良文化財研究所建造物研究室長)
千種清美(フリーライター)
辻　孝雄(国史跡斎宮跡協議会会長)
西村和浩(第三銀行経済研究所長)
平澤　毅(奈良文化財研究所遺跡整備研究室長)
増渕　徹(京都橘大学教授)

調査次数	地区	面積(㎡)	調査期間	位置	土地所有者	現状変更	保存地区区分
167	R10	537	H22.5.17～H22.9.9	明和町斎宮字西加座	明和町	計画発掘調査	1
168	R10	239	H22.7.20～H22.8.30	明和町斎宮字西加座	個人	計画発掘調査	1
169	Q11	71	H22.9.27～H22.10.25	明和町斎宮字御館	明和町	計画発掘調査	1
171	R11	37	H22.6.24～H22.11.18	明和町斎宮字柳原	明和町	計画発掘調査	1
170-1	R11	64	H22.4.19～H22.4.23	明和町斎宮字柳原	個人	倒木抜根	1
170-2	K4･5	94	H22.4.5～H22.4.16	明和町竹川字古里	個人	個人住宅新築	3
170-3	M14	62	H22.6.3～H22.6.9	明和町斎宮字木葉山	個人	個人住宅新築・浄化槽設置	3
170-4	R13	60	H22.7.6～H22.7.20	明和町斎宮字鈴池	個人	個人住宅改築・浄化槽設置	3
170-5	M11	8	H22.7.9	明和町斎宮字広頃	企業	鉄柱撤去・新設	3
170-6	P13	3	H22.9.27	明和町斎宮字牛葉	個人	便槽撤去・浄化槽新設	4
170-7	R8	10	H22.8.23～H22.8.27	明和町斎宮字西前沖	個人	進入路・駐車場造成	2
170-8	V13	3	H22.8.27	明和町斎宮字笛川	個人	便槽撤去・浄化槽新設	4
170-9	P12	30	H22.10.6	明和町斎宮字牛葉	個人	便槽撤去・浄化槽新設	3
170-10	J13	38	H22.10.12～H22.10.15	明和町斎宮字南裏	個人	個人住宅新築	3
170-11	H12	42	H22.12.2～12.3	明和町斎宮字中垣内	個人	個人住宅建替え	4
170-12	R13	9	H22.12.6	明和町斎宮字牛葉	個人	個人住宅建替え	3
170-13	G11	25	H23.3.2～3.4	明和町斎宮字中垣内	個人	敷地造成	3

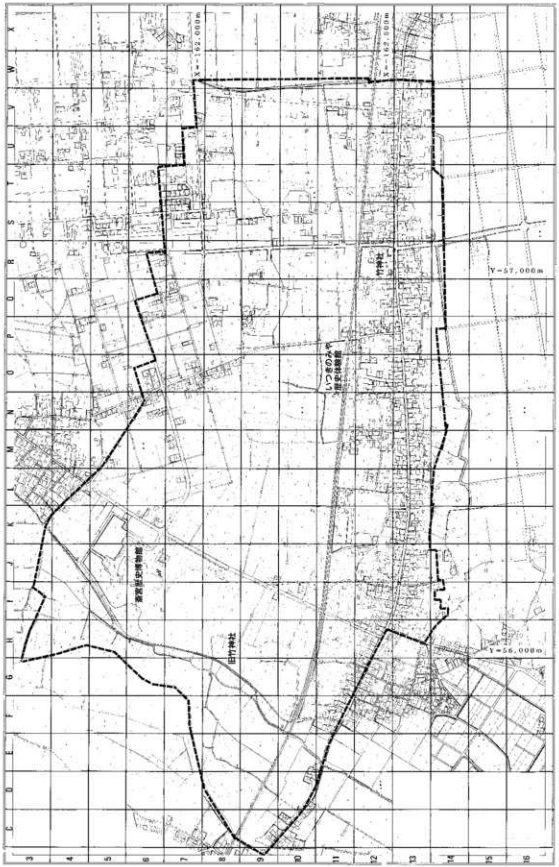
第Ⅰ－1表　平成22年度　発掘調査一覧表

第Ⅰ－１図　史跡斎宮跡位置図（1：50,000）国土地理院発行　1/25,000「松阪」「明野」（平成４年）より



第Ⅰ－２図　平成 22 年度発掘調査区位置図（1：10,000）

第Ⅰ－３図　斎宮跡方格地割区画名称図（1：5,000）



※太線枠内が国史跡範囲、座標は日本測地系（旧国土座標第Ⅵ系）による

第Ⅰ－４図　史跡斎宮跡における大地区表示図（2002 年）

Ⅱ　第167次調査
（6AR10　柳原地区）

1　はじめに

第167次調査区は、史跡東部の柳原区画に位置している。当該区画は、「内院」推定地である牛葉東区画の北隣、方格地割のほぼ中心に位置し、斎宮寮の中でも重要な役割を担った場所であることが想定されてきた。実際、第152次調査では、区画中央部で四面庇建物が複数回の建替えを行いながら長期間存続していたことが確認されており、第20・153次調査でも大型の三面庇建物が確認されるなど、柳原区画が斎宮寮の中枢部分であることが判明している。第167次調査は、柳原区画の北東部において、区画の建物の変遷や空間利用の実態解明を目的として実施した。

調査は平成22年５月17日から平成22年９月９日まで実施し、調査面積は537㎡である。

2　地形と層位

調査区は標高約10.4 ～ 10.6mの平坦地であるが、調査地は多目的砂利広場として利用されていたため盛土が行われており、旧地表面は標高約10.2mであった。調査区北側は低くなっており、北西側から浅い谷が入り込んでいる。

基本層位は、砕石・盛土下に灰黄褐色砂質土の旧表土があり、暗褐色砂質土の遺物包含層が約0.1 ～ 0.3m堆積し、その下で黄褐色粘土の地山を確認した。遺構は地山面で検出している。

3　遺構

この調査では、奈良時代末から平安時代末期を中心とした掘立柱建物28棟、井戸１基、溝７条、土坑23基を確認した。

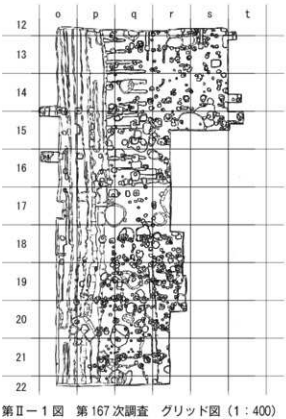
（1）斎宮Ⅰ－４の遺構

ＳＢ9709　調査区北西部で確認した桁行５間×梁行２間の東西棟で、桁行2.4m×梁行2.1mを測る。建物軸はN2°W。建物の西側は第152次調査で確認されており、今回の調査では、東側４間分を確認した。柱掘形は一辺１mで、隅丸方形を呈する。斎宮Ⅰ－４期に相当する。

ＳＢ9735　調査区西端中央部に位置し、第152次調査で確認された桁行５間×梁行２間の東西棟で、東側柱列のみを確認した。桁行2.0m×梁行2.1mを測り、建物軸はＮ４°Ｗであった。斎宮Ⅰ－４期～Ⅱ－１期に相当する。

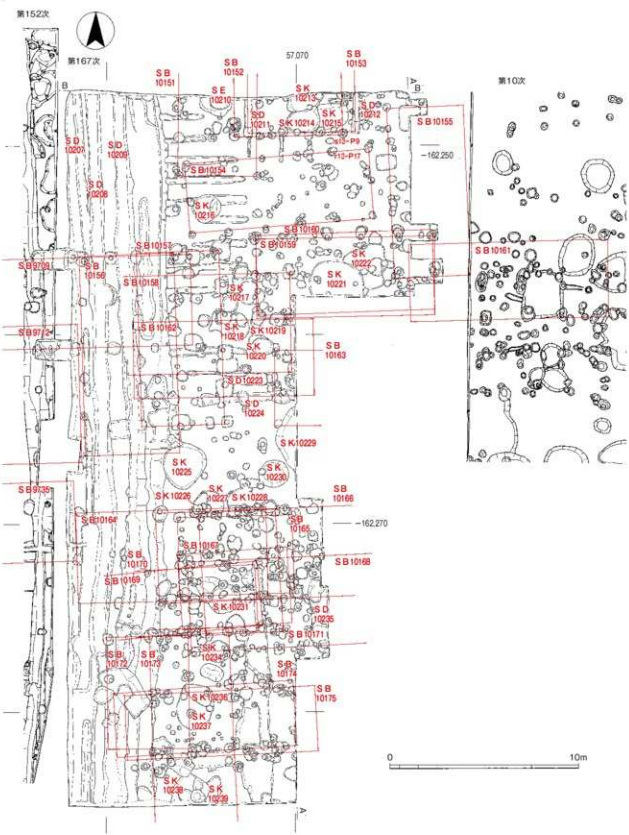
ＳＢ10163　調査区東端中央部で確認した桁行１間以上×梁行２間の東西棟で、梁行2.0mを測る。建物軸はＮ０°Ｗ。建物は調査区東側へ展開する。土師器皿(18)・甕(19)が出土している。斎宮Ⅰ－４期に相当する。

ＳＥ10210　調査区北端部に位置する井戸で、遺構の南半部を確認した。遺構は検出面で約1.7mを測り、検出面から0.35m下で直径1.1mとなる。検出面から深さ1.4mまで掘削したが、遺構はさらに続く。井戸の中層から土師器杯(13)が、上層から土師器皿(14)が出土しているほか、土師器椀・甕・甑、須恵器なども出土している。斎宮Ⅰ－４～Ⅱ－１期に埋

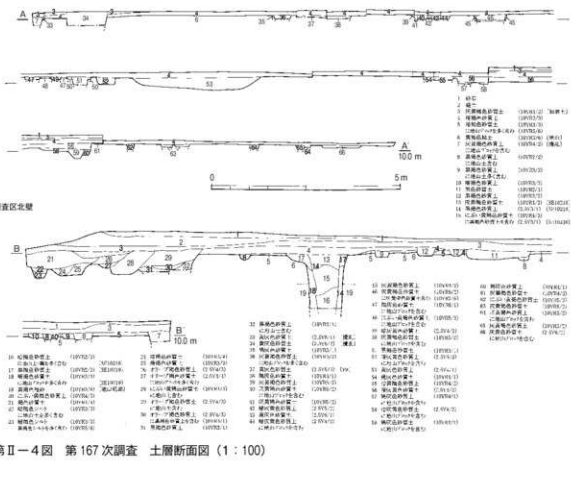


第Ⅱ－１図　第167次調査　グリッド図（1：400）

第Ⅱ－２図　第 167・168・169・171 次調査　調査区位置図（1：2,000）



第Ⅱ−3図　第167次調査　遺構平面図（1：200）



第Ⅱ－4図　第167次調査　土層断面図（1：100）

没したものと考えられる。

ＳＫ10213　調査区北端部に位置する土坑で、遺構の南半部を確認した。東西約２ｍ程の不正形を呈する遺構で、ＳＫ10214・10215より古い。土師器杯（１～９）・椀・皿(10)・甕(11)・盤(12)・甑が出土している。斎宮Ⅰ－４期に相当する。

(2)斎宮Ⅱ－１～２期の遺構

ＳＢ9712　調査区西端中央部に位置し、東側柱筋のみを確認した。桁行３間×梁行２間の南北棟で、建物軸はＮ２°Ｗを測る。西半部は第152次調査で検出されている。調査区西端の溝によって削平を受けており、北東隅の柱穴は確認できなかった。斎宮Ⅱ－１期に相当する。

ＳＢ10156　調査区北西部に位置している。桁行５間×梁行２間の南北棟で、桁行2.1ｍ×梁行2.5ｍを測る。建物軸はＮ２°Ｗ。溝によって削平を受けており、棟持柱は南北とも欠損する。遺構の重複関係より、ＳＢ10157より新しく、ＳＫ10225より古い。斎宮Ⅱ－２期以降のものと考えられる。

ＳＢ10157　ＳＢ10156に重複する遺構で、桁行５間×梁行２間の南北棟。桁行1.84ｍ×梁行2.2ｍを測る。建物軸はＮ３°Ｗ。西側柱列は、溝によって削平を受け、柱穴の底部のみを確認した。柱掘形は一辺0.4～0.7ｍの隅丸方形を呈する。ＳＢ10156よりも古く、斎宮Ⅱ－２期に相当する。

ＳＢ10158　調査区北東部に位置し、東南部は調査区外に展開する。桁行３間以上×梁行２間の東西棟で、桁行2.7ｍ×梁行2.6ｍと柱間がやや長い。建物軸はＮ２°Ｗを測る。柱掘形は一辺0.7～0.8ｍの隅丸方形を呈する。斎宮Ⅱ－１～２期に相当する。

ＳＢ10161　調査区北東端部に位置する桁行５間×梁行２間の東西棟で、西側柱列のみを確認した。東半部は第10次調査区へ続く。桁行2.1ｍ×梁行2.05ｍを測る。建物軸はＮ２°Ｗ。斎宮Ⅱ－２～３期に相当する。

ＳＢ10162　調査区中央部に位置する桁行５間×梁行２間とみられる東西棟で、西側柱列は溝によって削平され、東側柱列は調査区外へ展開する。桁

行1.9m×梁行2.0mを測る。建物軸はN２°W。ＳＤ10224やＳＫ10218よりも古く、斎宮Ⅱ－２～３期に相当する。

ＳＢ10164　調査区東端中央部に位置している。建物の西側は後世の溝によって削平を受ける。桁行５間×梁行２間の東西棟と考えられ、桁行2.0m×梁行2.4mを測る。建物軸はN２°W。土師器甕(20)が出土しており、斎宮Ⅱ－１～２期の遺構と考えられる。

ＳＢ10165　調査区中央部に位置する桁行３間×梁行２間の東西棟で、桁行2.0m×梁行2.1mを測る。建物軸はN１°W。柱穴の重複関係よりＳＢ10167よりも古い。土師器杯(21・22)・皿(23)、須恵器杯(24)、土錘(25)が出土している。斎宮Ⅱ－２期に相当する。

ＳＫ10218　調査区北部に位置する土坑で、長径2.0m×短径1.4mの不正形を呈する。土師器甕や須恵器甕が出土している。斎宮Ⅱ－２期頃に相当する。

ＳＫ10222　調査区北東部に位置する土坑で、長径2.4m×短径2.3mの不正形を呈する。遺構の重複関係よりＳＢ10158・ＳＫ10221より古い。土師器杯・皿・甕、須恵器杯蓋・甕、灰釉陶器椀が出土している。斎宮Ⅱ－１～２期に相当し、灰釉は混入したものと考えられる。

ＳＫ10229　調査区東端中央部に位置する土坑で、遺構の大部分は調査区外に展開する。深さ0.34mで、土師器杯・皿(16)・高杯(17)・甕・甑、須恵器杯(15)・甕・壺が出土している。斎宮Ⅱ－１に相当する。

(３)斎宮Ⅱ－３～４期の遺構

ＳＢ10152　調査区北端部に位置する東西３間の柱列を確認したが、建物になる可能性が高い。柱間は1.9mを測り、柱方向はN１°W。東端の柱痕跡からは、土師器杯(37～48)・皿(36)・高杯(50)・甑(49)、灰釉陶器椀(51・52)・皿(53・54)・壺(55)が一括して出土していることから、これらは建物の廃絶に伴い、一括して廃棄されたものと考えられる。斎宮Ⅱ－４期までに廃絶したものと考えられる。

ＳＢ10155　調査区北東端に位置する桁行５間×梁行２間と考えられる南北棟で、東半部は調査区外に展開する。桁行1.8m×梁行2.0mを測り、建物軸はN３°W。遺構の重複関係よりＳＢ10160よりも新しい。灰釉陶器椀(34)が出土しており、斎宮Ⅱ－４期の遺構と考えられる。

ＳＢ10159　調査区北東部に位置しする桁行５間×梁行２間の東西棟で、桁行1.9m×梁行2.2mを測り、建物軸はN２°W。柱穴がほぼ重複し、ＳＢ10160より古い。いくつかの柱痕跡からは、人頭大程度の石が出土しており、廃絶時に意図的に投入された可能性も考えられる。斎宮Ⅱ－３期の遺構のもの。

ＳＢ10160　調査区北東部に位置する桁行５間×梁行２間の東西棟で、桁行1.9m×梁行2.2mを測り、建物軸はN３°W。遺構の重複関係より、ＳＢ10159の建替えと考えられる。斎宮Ⅱ－４期の遺構と考えられる。

ＳＢ10166　調査区中央部に位置する桁行５間×梁行２間と考えられる東西棟で、桁行2.1m×梁行2.4m、建物軸はN2°Wを測る。遺構の重複関係よりＳＫ10228よりも古く、斎宮Ⅱ－３期頃のものと考えられる。

ＳＢ10167　調査区南半部に位置する桁行３間×梁行２間の東西棟で、桁行1.95m×梁行2.0mを測る。建物軸はN４°W。遺構の重複関係より、ＳＢ10165より新しく、斎宮Ⅱ－３期に相当する。

ＳＢ10168　調査区南半部に位置する桁行３間以上×梁行２間の東西棟で、桁行2.25m×梁行2.4mを測る。建物軸はN４°W。ＳＢ10165より新しく、斎宮Ⅱ－３期に相当する。

ＳＢ10172　調査区南端部に位置する桁行３間×梁行２間の南北棟で、桁行2.0m×梁行2.1mを測る。建物軸はN３°W。遺構の重複関係より、ＳＫ10237より古く、斎宮Ⅱ－３期に相当する。

ＳＢ10173　調査区南端部に位置する桁行３間以上×梁行２間の南北棟建物。梁行2.1mに対し桁行が3.7mと長く、通常の建物とは異なる。間に補助的な柱穴が存在するか特別な目的を持った建物などの可能性も含めて、建物としてとらえた。建物軸はN３°W。斎宮Ⅱ－３～４期に相当する。

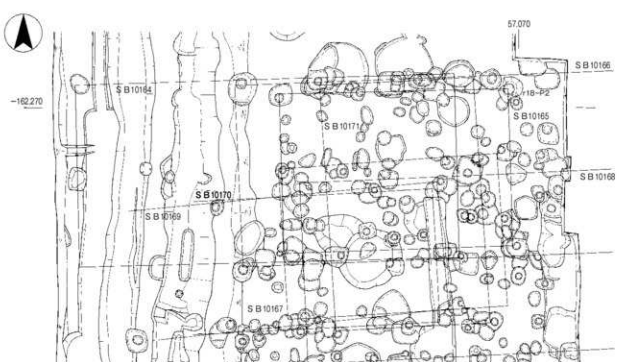
ＳＢ10174　調査区南端部に位置する桁行３間以上×梁行２間の東西棟で、建物の西側は後世の溝によって削平を受けており、東側は調査区外へ展開する。桁行５間になると考えられ、桁行1.9m×梁行1.7mを測る。建物軸はN５°W。遺構の重複関係よ

遺構名	調査時遺構名	ピット番号 ※( )はグリッド番号	時期	規模 間(m)×間(m)	柱間寸法(m)	主軸	方位(N規準)	備考
SB 9709		(o16)P2/(p14)P4/(q14)P15/(q15)P2/(q16)P2	Ⅰ-4	5(10.5)×2(4.8)	(桁行) 2.1 (梁行) 2.4	東西	N2° W	第152次調査で確認
SB 9712		(o17)P2	Ⅱ-1	3(7.2)×2(4.8)	(桁行) 2.4 (梁行) 2.4	南北	N2° W	第152次調査で確認
SB 9735		(o18)P1	Ⅰ-4 ～ Ⅱ-1	5(10.0)×2(4.2)	(桁行) 2.0 (梁行) 2.1	東西	N4° W	第152次調査で確認
SB 10151	建物13	(p13)P2/(q13)P17・P20/(r12)P2	Ⅱ	(-)×2(4.2)	(桁行) 1.85 (梁行) 2.1	南北	N1° W	
SB 10152	建物8	(q13)P6/(r13)P8・P18/(s13)P9	Ⅱ-4	3(5.7)×(-)	(桁行) 1.9	東西	N1° W	
SB 10153	建物12	(q13)P13/(r13)P12・P22/(s13)P10	Ⅱ	3(5.7)×(-)	(桁行) 1.9 (梁行) -	東西か	N1° W	溝持柱建物か
SB 10154	建物1	(q13)P4・P8/(q14)P5・P11・P16/(r13)P17・P19・P20/(r14)P12・P15/(s13)P7/(s14)P9・P17	～Ⅲ-2	5(9.8)×2(3.7)	(桁行) 1.95 (梁行) 1.85	東西	N5° W	柱痕より幾出土
SB 10155	建物6	(s13)P12/(s14)P7/(s15)P1/(t13)P1/(t15)P1	Ⅱ-4	5(9.0)×(-)	(桁行) 1.8 (梁行) 2.0	南北	N3° W	SB10160より新
SB 10156	建物15	(o14)P1/(o16)P1/(o17)P1・P2/(p14)P3/(p15)P2	Ⅱ-2	5(10.5)×2(5.0)	(桁行) 2.1 (梁行) 2.5	南北	N2° W	SK10225より古
SB 10157	建物5	(p14)P5/(p17)P1・P3/(q14)P9/(q15)P3・P9/(q16)P5・P6/(q17)P2	Ⅱ-2	5(9.0)×2(4.6)	(桁行) 1.84 (梁行) 2.2	南北	N3° W	
SB 10158	建物14	(q15)P8/(q16)P4/(r15)P3・P4・P5/(r16)P9/(s15)P11	Ⅱ-1～2	(-)×2(5.2)	(桁行) 2.7 (梁行) 2.6	東西	N2° W	SK10222より新
SB 10159	建物3	(q14)P4/(q15)P4/(r14)P3/(r15)P7・P16・P17/(s14)P8・P11/(t14)P1・P2/(t15)P2	Ⅱ-3	5(9.5)×2(4.2)	(桁行) 1.9 (梁行) 2.2	東西	N2° W	SB10160より古 柱痕に石
SB 10160	建物4	(q14)P6/(r14)P10/(s14)P12/(t14)P3	Ⅱ-4	5(9.2)×2(4.4)	(桁行) 1.8 (梁行) 2.1	東西	N3° W	SB10159より新
SB 10161	建物24	(s14)P6/(s15)P6	Ⅱ-2～3	5(10.5)×2(4.1)	(桁行) 2.1 (梁行) 2.05	東西	N2° W	第10次調査で確認
SB 10162	建物10	(p15)P3/(q15)P6/(q16)P8/(r15)P14/(r16)P12	Ⅱ-2～3	5(-)×2(4.0)	(桁行) 1.9 (梁行) 2.0	東西	N2° W	SD10224より古
SB 10163	建物26	(r16)P7・P10/(r17)P3	Ⅰ-4	(-)×2(4.0)	(桁行) - (梁行) 2.0	東西	N0° W	
SB 10164	建物16	(p18)P2/(p19)P3/(q18)P26・P29/(q19)P15/(r18)P5・P18/(r19)P8	Ⅱ-1～2	(-)×2(4.8)	(桁行) 2.0 (梁行) 2.4	東西	N2° W	SK10228より古
SB 10165	建物9	(p18)P1/(q18)P11/(q19)P22・P25/(r18)P2・I1/(r19)P16	Ⅱ-2	3(6.0)×2(4.2)	(桁行) 2.0 (梁行) 2.1	東西	N1° W	SB10167より古
SB 10166	建物17	(q18)P17・P18/(q19)P18・P23/(r18)P6・P24/(r19)P9	Ⅱ-3	5(10.5)×2(4.8)	(桁行) 2.1 (梁行) 2.4	東西	N2° W	SK10228より古
SB 10167	建物23	(p18)P3/(q18)P8・P19/(q19)P26/(r18)P12/(r19)P4・P22	Ⅱ-3～4	3(5.85)×2(4.0)	(桁行) 1.95 (梁行) 2.0	東西	N4° W	SB10165より新
SB 10168	建物19	(r18)P23/(r20)P3・P23/(q18)P14/(q20)P20	Ⅱ-3	(-)×2(4.8)	(桁行) 2.25 (梁行) 2.4	東西	N4° W	
SB 10169	建物20	(q19)P7・P10・P21・P27/(r19)P6・P9・P34	Ⅲ?	(-)×2(3.4)	(桁行) 2.0 (梁行) 1.7	東西	N6° W	
SB 10170	建物21	(q19)P6・P9・P31・P28/(r19)P15	Ⅲ?	(-)×2(3.5)	(桁行) 2.0 (梁行) 1.75	東西	N4° W	
SB 10171	建物18	(q18)P5・P25/(q19)P17・P20/(q20)P15/(r18)P13/(r19)P2・P38	Ⅱ～	3(6.6)×2(4.1)	(桁行) 2.2 (梁行) 2.05	南北	N4° W	
SB 10172	建物11	(p19)P9/(p20)P2・P4/(p21)P10/(q20)P5/(q21)P2・P19	Ⅱ-3	3(6.0)×2(4.2)	(桁行) 2.0 (梁行) 2.1	南北	N3° W	
SB 10173	建物25	(p19)P7/(p20)P5/(q21)P5/(q19)P19・P24/(q20)P9/(q21)P13	Ⅱ-3～4	(-)×2(4.2)	(桁行) 3.7 (梁行) 2.1	南北	N3° W	
SB 10174	建物7	(p20)P6/(p21)P8/(q20)P8/(q21)P11・P18/(r21)P11	～Ⅱ-3	(-)×2(3.4)	(桁行) 1.9 (梁行) 1.7	東西	N5° W	
SB 10175	建物22	(p20)P1/(q20)P1/(q21)P7/(r20)P5・P17/(r21)P13	Ⅱ-3	(-)×2(3.4)	(桁行) 2.0 (梁行) 1.7	東西	N4° W	

第Ⅱ－1表　第167次調査　堀立柱建物一覧表

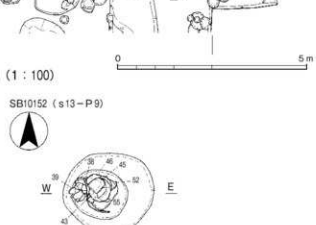
遺構名	調査時遺構名	グリッド	時　期	出土遺物	備　考
SD 10207	溝5	o12~o15	Ⅲ-3～	土師器皿	
SD 10208	溝6	o12~o22	鎌倉前期	土師器椀・甕・甑、須恵器甕、陶器山茶椀	SD10207より新
SD 10209	溝2	p12~p22	近世	土師器、陶器壺、近世陶磁器片、瓦	
SE 10210	井戸1	q12~q13	Ⅰ-4～Ⅱ-1	土師器杯・皿・甑・甕、須恵器	
SD 10211	溝7	r12~r13	Ⅱ-3～4	土師器皿・甕、灰釉陶器椀	SB10153に関する溝か
SD 10212	溝9	s12~s13	Ⅱ-3～4	土師器甕、須恵器甕	SB10153に関する溝か
SK 10213	土坑4	r12	Ⅰ-4	土師器杯・椀・皿・盤・甕・甑	SK10214・10215より古
SK 10214	土坑5	r13	Ⅲ-2～	土師器台付皿・甕、須恵器甕、ロクロ土師器台付皿、灰釉陶器椀	
SK 10215	土坑20	r13~s13	Ⅲ-2	土師器杯・皿・台付皿・甕・甑、緑釉陶器、灰釉陶器椀、釘	
SK 10216	土坑21	q14	Ⅱ-3	土師器杯・甕・甑、黒色土器、須恵器杯・甕、灰釉陶器椀	
SK 10217	土坑25	q15	Ⅱ？	土師器、須恵器甕	
SK 10218	土坑18	q15~q16	Ⅱ-2	土師器甕、須恵器甕	SB10162より古
SK 10219	土坑16	q16	Ⅱ-3～4	灰釉陶器椀・皿、土錘	
SK 10220	土坑35	q16~r16	Ⅲ？	土師器甕	
SK 10221	土坑12	r15~s15	Ⅲ-3	土師器皿・高杯・甕、須恵器甕、ロクロ土師器皿・台付皿、灰釉陶器、陶器山茶椀	SK10222より新
SK 10222	土坑13	s14~s15	Ⅱ-1～2	土師器杯・皿・甕、須恵器杯蓋・甕、灰釉陶器椀	SB10158・SK10221より古
SD 10223	溝11	q16~r16	Ⅱ？	土師器	
SD 10224	溝10	q16~r16	Ⅲ-2～	土師器皿、灰釉陶器椀	SB10162より古
SK 10225	土坑9	p17~q18	Ⅲ-2～3	土師器杯・甕、須恵器壺、灰釉陶器椀	SB10156より新
SK 10226	土坑26	q18	Ⅲ？	－	SK10227より古
SK 10227	土坑23	q18	Ⅲ？	土師器甕、灰釉陶器	
SK 10228	土坑24	q18~r18	Ⅱ-3	土師器高杯・甕、須恵器壺	SB10164・10166より新
SK 10229	土坑11	r16~r17	Ⅱ-1	土師器杯・皿・高杯・甕・甑、須恵器杯・甕・壺	
SK 10230	土坑10	r17~r18	Ⅱ-3	土師器杯・椀・皿・甕・台付甕、須恵器壺、灰釉陶器椀・皿、緑釉陶器椀	
SK 10231	土坑28	q19	～Ⅲ-2	土師器甕、須恵器蓋・高杯・甕、ロクロ土師器皿	
SK 10234	土坑29	q20	Ⅱ？	土師器、緑釉陶器	
SK 10235	溝12	r19~r20	Ⅲ-1	土師器椀・皿・甕・甑、須恵器杯、灰釉陶器皿	Ⅰ-4～Ⅱ-4期の土器を含む。
SK 10236	土坑34	q20	Ⅲ-2～3	土師器甕、灰釉陶器、陶器壺	
SK 10237	土坑1	p20~q21	Ⅲ-2	土師器杯・皿、ロクロ土師器皿・台付皿、須恵器甕・壺、灰釉陶器椀、粘土塊、不明金属製品	
SK 10238	土坑31	p21~q21	Ⅲ-3～	土師器皿・高杯、ロクロ土師器皿、灰釉陶器	
SK 10239	土坑32	q21	Ⅲ-3～	土師器甕・台付皿、ロクロ土師器台付皿	SK10238より古

第Ⅱ－2表　第167次調査　遺構一覧表



第Ⅱ－５図　第167次調査　ＳＢ10164～10171平面図（1：100）

第Ⅱ－６図　第167次調査
ＳＢ10154土器出土状況図（1：20）



第Ⅱ－７図　第167次調査
ＳＢ10152土器出土状況図（1：20）

り、ＳＢ10172より古く、斎宮Ⅱ－３期以前のものと考えられる。

ＳＢ10175　ＳＢ10174と重複する桁行３間以上×梁行２間の東西棟で、東西側柱列についてもＳＢ10174と同様である。桁行５間になると考えられ、桁行2.0m×梁行1.7mを測る。建物軸はＮ４°Ｗ。遺構の重複がないため、ＳＢ10174との前後関係は不明だが、建物位置や柱間間隔などから考えて、建替えの可能性が考えられる。斎宮Ⅱ－３期以降のもの。

ＳＫ10216　調査区北部に位置する土坑で、長径1.6m×短径1.5m、深さ0.26mの楕円形を呈し、東半部は0.35mと深い。土師器杯・甕(26)・甑、黒色土器、須恵器杯・甕、灰釉陶器椀が出土している。斎宮Ⅱ－３期に相当する。

ＳＫ10219　調査区北部に位置する土坑で、遺構の

大部分はＳＫ10220によって削平を受ける。灰釉陶器椀・皿、土錘が出土しており、斎宮Ⅱ－３～４期に相当する。

ＳＫ10228　調査区中央部に位置する土坑で、直径1.5m、深さ0.05mの円形を呈する。遺構の重複関係より、ＳＢ10164・10166よりも新しい。土師器高杯・甕、須恵器壺が出土している。斎宮Ⅱ－３期頃の遺構と考えられる。

ＳＫ10230　調査区中央部に位置する土坑で、長径1.6m×短径1.5m、深さ0.2mの楕円形を呈する。土師器杯(28・29)・椀・皿・甕(30)・台付甕、須恵器壺、灰釉陶器椀・皿(27)、緑釉陶器椀(30)が出土している。斎宮Ⅱ－３期に相当する。

(４)斎宮Ⅱ期の遺構

ＳＢ10151　調査区北辺部に位置する桁行３間以上×梁行２間の南北棟で、建物の北半は調査区外へ展開する。桁行1.85m×梁行2.1m、建物軸はN0°Wを測る。

ＳＢ10153　調査区北端に位置する。東西３間の柱列を確認した。柱間1.9mを測り、柱方向はＮ１°Ｗ。建物の南側柱列になるものと考えられ、北半は調査区外に展開する。東西側柱列部分に重複して幅0.3～0.4m、深さ約0.1mのＳＤ10212・10211が存在する。柱穴は溝の底部で確認しており、溝持柱と考えられる。斎宮Ⅱ期頃のものか。

ＳＢ10171　調査区南部に位置する桁行３間×梁行２間の南北棟。桁行2.2m×梁行2.05m、建物軸はＮ４°Ｗを測る。

ＳＤ10223　調査区中央部に位置する溝で、全長1.8m×幅0.7mを測る。土師器片が出土している。

ＳＫ10217　調査区北部に位置する土坑で、長径1.3m×短径0.9mの楕円形を呈する。土師器片や須恵器甕が出土している。

ＳＫ10234　調査区南部に位置する土坑で、直径1.2m、深さ0.2mの円形を呈する。土師器片や緑釉陶器片が出土している。

(５)斎宮Ⅲ期の遺構

ＳＢ10154　調査区北部に位置する桁行５間×梁行２間の東西棟で、桁行1.95m×梁行1.85mを測り、建物軸はＮ５°Ｗ。土師器小皿(67)・台付鉢(68)・土師器甕(69)、白磁椀(70)が出土している。68～70はr13－Ｐ17の柱痕跡から出土しており、建物は斎宮Ⅲ－２期以前のものと考えられる。ただし、この柱穴には重複がみられることから、r13－Ｐ17は建物廃絶後のもの可能性も考えられる。

ＳＤ10207　調査区の北西部に位置する南北溝で、延長6.5mを確認した。ＳＤ10208によって削平を受ける。幅0.5m×深さ0.3mを測り、土師器皿が出土している。斎宮Ⅲ－３期以降のもの。

ＳＤ10224　ＳＤ10223の南側に位置する東西方向の溝で、調査区外へ続く。幅0.6m、深さ0.15mを測り、土師器皿、灰釉陶器椀が出土している。斎宮Ⅲ－２期以降のものと考えられる。

ＳＫ10214　調査区北端部に位置する土坑で、長径1.85m×短径1.4m、深さ0.2mの楕円形を呈する。土師器台付皿・甕、須恵器甕、ロクロ土師器台付皿、灰釉陶器椀が出土している。斎宮Ⅲ－２期以降のものである。

ＳＫ10215　調査区北端部に位置する土坑で、長径1.6m以上×短径1.3m、深さ0.2mの楕円形を呈する。土師器杯(57・58)・皿・台付皿・甕・甑、緑釉陶器、灰釉陶器椀、釘(59)が出土している。斎宮Ⅲ－２期以降のもの。

ＳＫ10221　調査区北東部に位置する土坑で、直径約3.0mの楕円形を呈し、南半部は調査区外に展開する。土師器皿・高杯・甕、須恵器甕、ロクロ土師器皿・台付皿、灰釉陶器、陶器椀が出土している。遺構の重複関係よりＳＫ10222より新しく、斎宮Ⅲ－３期以降に相当すると考えられる。

ＳＫ10225　調査区中央部に位置する土坑で、長径2.5m×短径2.3m、深さ0.2mの楕円形を呈する。土師器杯・甕、須恵器壺、陶器椀が出土しているが、いずれも小片である。斎宮Ⅲ－２～３期に相当する。

ＳＫ10238　調査区南端部に位置する土坑で、一辺約1.8mの方形状を呈するが、南半部は調査区外に展開する。土師器皿・高杯、ロクロ土師器皿、陶器が出土している。斎宮Ⅲ－３期以降のもの。

ＳＫ10239　調査区南端部に位置する土坑で、西半部はＳＫ10238によって削平を受ける。土師器甕・台付皿、ロクロ土師器台付皿が出土している。斎宮Ⅲ－３期以降のもの。

ＳＫ10231　調査区南部に位置する土坑で、長径1.8ｍ以上×短径1.6ｍ、深さ0.2ｍの楕円形を呈する。土師器甕、須恵器蓋・高杯・甕、ロクロ土師器皿が出土している。斎宮Ⅲ－２期頃までのもの。

ＳＫ10235　調査区中央東端に位置する土坑で、遺構の東半部は調査区外に展開する。深さ0.1ｍで埋土は黒色砂質土であった。土師器椀・皿(60～63)・甕(64)・甑、須恵器杯、灰釉陶器皿が出土している。遺物には斎宮Ⅰ－４、Ⅱ－３～４期のものも含むが、埋没時期はⅢ－１期と考えられる。

ＳＫ10236　ＳＫ10237の北半で確認した土坑で、長径1.6ｍ×短径1.0ｍの隅丸三角形を呈する。土師器甕、灰釉陶器片、陶器壺(73)が出土している。斎宮Ⅲ－２～３期に相当する。ＳＫ10237と一連の遺構かもしれない。

ＳＫ10237　調査区南部に位置する土坑で、長径2.4ｍ×短径2.0ｍの楕円形を呈し、北半部はＳＫ10236が重複する。土師器杯(65)・皿、ロクロ土師器皿・台付皿、須恵器甕・壺、灰釉陶器椀、粘土塊、不明金属製品(66)が出土している。斎宮Ⅲ－２期に相当する。

(６)その他の時期の遺構

ＳＤ10208　調査区の北西部に位置する南北溝で、幅0.7～1.3ｍ、深さ0.3ｍを測る。土師器椀・甕・甑、須恵器甕、陶器山茶椀が出土している。山茶椀は藤沢良祐氏の山茶椀編年の第５型式[1]にあたる。鎌倉前期の遺構と考えられる。

ＳＤ10209　調査区の西部に位置する南北方向の溝で、幅0.8～1.3ｍ、深さ0.3ｍを測る。土師器、陶器壺、近世陶磁器、近世瓦が出土している。調査区の西端は現在、「字西加座」と「字柳原」の境となっており、この溝は字境を示すものと考えられる。

４　遺物

(１)斎宮Ⅰ－４～Ⅱ－１期の遺物

ＳＫ10213出土遺物(１～12)　１～４・６～９は土師器杯Ａ。口縁端部は外に開き、体部下半にはケズリが施される。２・３・７は内面体部に放射状暗文が、４は内面体部に螺旋状暗文が施される。８・９は内面体部に放射状暗文が、内面底部に螺旋状暗文が施される。５は土師器杯Ｇで、器壁が厚く、外面には粘土接合痕が残る。10は土師器皿Ａで、外面体部下半および底面にケズリ調整が施される。11は土師器甕Ｃになるものか。12は土師器盤で、口縁部は外に開く。斎宮Ⅰ－４期に相当する。

ＳＥ10210出土遺物(13・14)　13は土師器杯Ｇ。器壁が厚く、外面体部下半には指頭圧痕が残る。14は土師器皿Ａで、外面体部下半は指オサエ後にナデ調整が施される。斎宮Ⅰ－４～Ⅱ－１期に相当する。

ＳＫ10229出土遺物(15～17)　15は須恵器杯Ｂ。16は土師器皿Ａで、器壁は厚い。17は高杯の杯部。斎宮Ⅱ－１期に相当する。

ＳＢ10163出土遺物(18・19)　18は土師器皿Ａ。19は土師器甕Ａで、口縁部は器壁が肥厚する。斎宮Ⅰ－４期に相当する。

ＳＢ10164出土遺物(20)　20は土師器甕で、外面体部には荒いハケが施される。斎宮Ⅱ－１～２期に相当する。

(２)Ⅱ－２～３期の遺物

ＳＢ10165出土遺物(21～25)　21・22は土師器杯Ａ。口縁部は外に開き、22は外面体部下半に指頭圧痕が残る。23は土師器皿Ａ。24は須恵器杯で、外面底部に糸切痕が残る。25は土錘。斎宮Ⅱ－２期に相当するものと考えられる。

ＳＫ10216出土遺物(26)　26は土師器甕Ａで、外面体部は荒いハケが施され、内面口縁部には煤が付着する。斎宮Ⅱ－３期に相当する。

ＳＫ10230出土遺物(27～31)　28・29は土師器杯Ａ。器壁は薄く、外面体部には指頭圧痕が残る。30は土師器甕Ａ。球形の体部で、外面体部上半は荒いハケが施され、下半には指頭圧痕が残る。27は灰釉陶器で下半は欠損しているが、皿になるものと考えられる。斎宮Ⅱ－３期に相当する。

31は猿投産の緑釉陶器椀で、口縁端部は外反する。内外面ともに除刻が施され、内面に花文が、外面に飛雲文が見られる。同一個体とみられる小片がｒ18－Ｐ2からも出土している。遺物は斎宮Ⅱ－２期のもの。

ＳＢ10166出土遺物(32)　土師器杯Ａ。外面体部下半に指頭圧痕が残る。斎宮Ⅱ－４期のもの。

ＳＢ10151出土遺物(33)　土師器杯Ａ。外面体部下半に指頭圧痕が残る。斎宮Ⅱ－４期のもの。

ＳＢ10155出土遺物(34)　灰釉陶器椀。外面底部には糸切痕が残る。折戸53号窯式併行期のものと考えられる。斎宮Ⅱ－４期のもの。

ＳＢ10171出土遺物(35)　土師器鉢。口縁部が広く外に開き、端部は上方につまみ上げられる。平底になるものと考えられる。

ＳＢ10152出土遺物(36～56)　いずれも建物南東隅の柱穴s13－Ｐ９から出土したもの。36は土師器皿Ａ、37～48は土師器椀Ａで、いずれも外面体部には指頭圧痕が見られる。口縁端部は外反する。49は土師器甑で把手が付く。外面は口縁部はヨコナデが、体部上半は粗いハケが施される。下半には指頭圧痕が残り、粘土接合痕が見られる。50は土師器高杯で、表面は面取りが施される。51・52は灰釉陶器椀、53・54は灰釉陶器皿。54は口縁部に輪花が３ヶ所残っており、完形では５ヶ所あったものと考えられる。55は灰釉陶器壺。56は鉄製釘。先端は欠損するが、頭部が残る。これらは、斎宮Ⅱ－３～４期に相当するものと考えられる。

ＳＫ10215出土遺物(57～59)　57・58は土師器杯Ａ。57は外面に粘土接合痕が残る。58は口縁端部が内湾しながら外に開く。59は鉄製品で釘か鎹と考えられる。斎宮Ⅱ－２～３期に相当するものと考えられる。

ＳＫ10235出土遺物(60～64)　60・61は土師器皿Ａ。61は器壁が厚く、混入したものと考えられる。62・63は土師器杯Ａで、口縁部は外反する。64は土師器甕Ａ。61・64は混入したものと考えられる。遺物は主に斎宮Ⅱ－３期のものが大半を占めるが、他にⅠ－４期やⅡ期のものも混入する。

(３)Ⅲ期の遺物

ＳＫ10237出土遺物(65・66)　65は土師器杯Ａ。外面には指頭圧痕や粘土接合痕が残る。口縁端部は強いナデのため段が見られる。66は金属製品で器形は不明だが、底部が扁平であり、上方は屈曲して破断面が見られることから、金属製品の脚部の可能性が考えられる。現在分析中であるが、金属の表面には緑青状のものが見られ、銅製品である可能性が考えられる。ＳＫ10237からはロクロ土師器も出土しており、斎宮Ⅲ－１～２期のものである。

ＳＢ10154出土遺物(67～70)　67は土師器小皿で、口縁部はやや肥厚する。68は土師器台付鉢で、外面体部下半および底部には指頭圧痕が見られ、脚部は外に開きながら伸びる。内面底部には粘土接合痕が残る。69は土師器甕Ａ。外面頸部は強いナデにより段を持ち、体部は上半に粗いハケが、下半には板ナデ調整が見られる。内面体部は上半には指頭圧痕が、下半は板ナデ調整が施される。70は白磁椀で、口縁端部は玉縁状を呈する。斎宮Ⅲ－２期のもの。

ＳＤ10208出土遺物(71・72)　71は近江産の緑釉陶器椀。底部には糸切痕が残る。72は陶器椀。外面底部には糸切痕が残る。この遺構には、斎宮Ⅲ－２期～鎌倉時代初頭のものを含む。

ＳＫ10236出土遺物(73)　73は陶器壺。胎土は赤褐色呈し、内外面とも黒色の釉が厚くかかる。

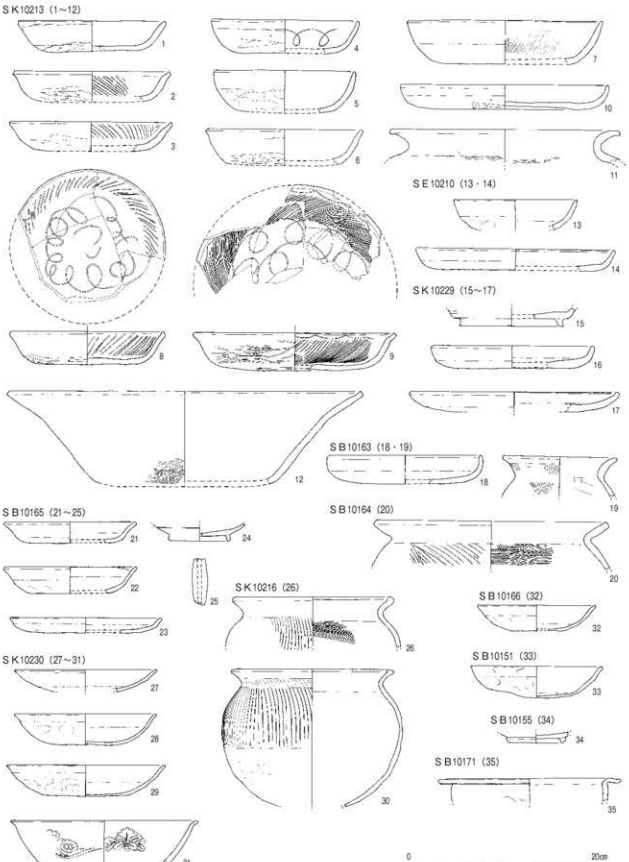
Pit・その他出土遺物(74～81)　74・75は土師器皿Ａ。76は土師器杯Ａ。口縁端部は外反する。77・78は台付皿。78は底部に糸切痕が残る。79は台付杯。80は土師器の脚部で、三足盤になるものか。81は柱穴より出土した滑石製の紡錘車で、表面は丹念に磨かれる。Pit は平安時代のものであり、紡錘車は古墳時代のものが混入したものと考えられる。

５　まとめ

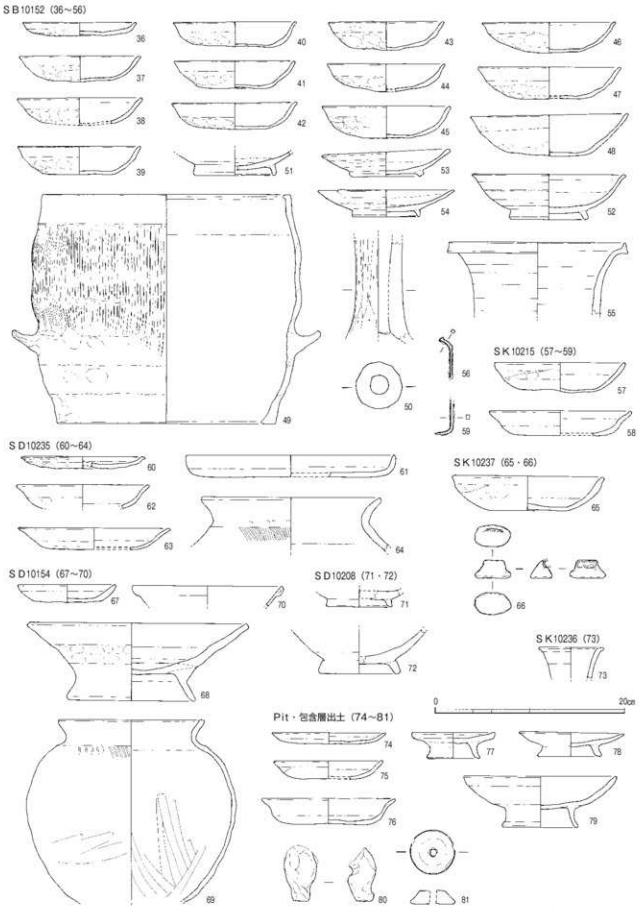
今回の調査区は、柳原区画の北東部に位置するが、掘立柱建物28棟をはじめとする多数の遺構を確認している。

斎宮Ⅰ－４期は遺構は少ないが、掘立柱建物は３棟確認した。いずれも調査区の中央部に位置するが、建物方向はＮ０～４°Ｗとばらつきが認められる。調査区の北端で土坑と井戸を確認しているがＳＥ10210は、斎宮Ⅰ－４～Ⅱ－１期内には埋没したものと考えられる。柳原区画は、斎宮Ⅰ－４期には区画を四等分して利用していたと考えられており、それぞれの小区画に倉庫的な建物や井戸が確認されている。ＳＥ10210は、柳原区画北東の小区画にあたり、こうした土地利用に基づいて計画的に設置されたものと考えられる。

斎宮Ⅱ－１～２期には、掘立柱建物は８棟を確認している。建物軸は主にＮ１～２°Ｗとなる。ＳＢ10156・10157は調査区中央部に位置する南北棟で、柱掘形が一辺１ｍを超える大型のものである。建物規模は異なるが、北側柱列を揃えて重複してお



第Ⅱ－8図　第167次調査　出土遺物実測図①（1：4）



第Ⅱ－9図　第167次調査　出土遺物実測図②（1：4）

番号	器種	器形	地区遺構	法量(cm)		調整・技法の特徴	粗土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
1	土師器	杯A	SK10213	口径	15.4	外面:ヨコナデ、ケズリ	密	良	橙5YR6/8	全体		002-01
				器高	3.4	内面:ヨコナデ、暗文				7/12		
2	土師器	杯A	SK10213	口径	16.2	外面:ヨコナデ、ケズリ	密	良	橙5YR6/6	口縁部		004-03
				器高	3.2	内面:ヨコナデ、放射状暗文				1/12		
3	土師器	杯A	SK10213	口径	16.9	外面:ヨコナデ、ケズリ	密	良	浅黄橙7.5YR8/6	口縁部		003-05
				器高	3.1	内面:ヨコナデ、放射状暗文				2/12		
4	土師器	杯A	SK10213	口径	15.3	外面:ヨコナデ、ケズリ	密	良	橙5YR6/8	口縁部		004-02
				器高	3.5	内面:ヨコナデ、螺旋状暗文				1/12		
5	土師器	杯G	SK10213	口径	14.7	外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ	密	良	灰黄2.5Y6/2	口縁部	粘土接合痕	003-03
				器高	4.4	内面:ヨコナデ				2/12		
6	土師器	杯A	SK10213	口径	16.2	外面:ヨコナデ、ケズリ	密	良	橙5YR6/8	口縁部	粘土接合痕	003-04
				器高	3.7	内面:ヨコナデ、暗文				1/12		
7	土師器	杯A	SK10213	口径	20.3	外面:ヨコナデ、ケズリ	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部		004-01
				器高	4.6	内面:ヨコナデ、放射状暗文				1/12		
8	土師器	杯A	SK10213	口径	16.0	外面:ヨコナデ、ケズリ	密	良	橙5YR6/8	全体		002-02
				器高	3.5	内面:ヨコナデ、放射・螺旋状暗文				8/12		
9	土師器	杯A	SK10213	口径	20.9	外面:ヨコナデ、ヘラミガキ	精良	良	橙5YR6/8	全体		002-04
				器高	4.0	内面:ヨコナデ、放射・螺旋・連弧状暗文				4/12		
10	土師器	皿A	SK10213	口径	21.7	外面:ヨコナデ、ケズリ	密	良	橙7.5YR7/8	全体	器面剥離	002-03
				器高	2.6	内面:ヨコナデ、ハケ				8/12		
11	土師器	甕C	SK10213	口径	23.2	外面:ヨコナデ、ハケ	密	良	浅黄橙10YR8/4	口縁部		002-02
				残高	3.5	内面:ヨコナデ、ハケ				2/12		
12	土師器	甕	SK10213	口径	36.8	外面:ハケ、ヘラミガキ	密	軟調	橙5YR7/8	口縁部		003-01
				残高	9.8	内面:ヨコナデ、ハケ				3/12		
13	土師器	杯G	SE10210 中層	口径	12.8	外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部		009-08
				器高	3.2	内面:ヨコナデ、ナデ				2/12		
14	土師器	皿A	SE10210 上層	口径	20.6	外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ	密	良	橙5YR6/6	口縁部		009-07
				器高	2.2	内面:ヨコナデ、ナデ				1/12		
15	須恵器	杯B	SK10229	口径	10.8	外面:ロクロナデ、糸切痕	密	良	灰白5Y7/1	底部		008-03
				残高	2.0	内面:ロクロナデ				2/12		
16	土師器	皿A	SK10229	口径	16.2	外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ	密	良	橙5YR7/6	口縁部		008-02
				器高	2.4	内面:ヨコナデ、ナデ				1/12		
17	土師器	高杯	SK10229	口径	21.3	外面:ヨコナデ、ナデ、オサエ	密	良	橙5YR6/6	口縁部		008-01
				器高	2.1	内面:ヨコナデ、ナデ				1/12		
18	土師器	皿A	SB10163	口径	15.9	外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部		011-02
				器高	3.0	内面:ヨコナデ、ナデ				1/12		
19	土師器	甕A	SB10163	口径	11.8	外面:ヨコナデ、ハケ	密	良	浅黄橙10YR8/4	口縁部		011-01
				残高	4.2	内面:ヨコナデ、工具ナデ				2/12		
20	土師器	甕	SB10164	口径	24.0	外面:ヨコナデ、ハケ	密	良	にぶい橙2.5YR7/3	口縁部	内外面に煤付着	011-03
				残高	5.0	内面:ヨコナデ、ハケ				1/12		
21	土師器	杯A	SB10165	口径	13.6	外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部	口縁部内外面に煤付着	010-02
				器高	2.2	内面:ヨコナデ、ナデ				1/12		
22	土師器	杯A	SB10165	口径	13.8	外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部	粘土接合痕	010-04
				器高	2.8	内面:ヨコナデ、ナデ				2/12		
23	土師器	皿A	SB10165	口径	15.4	外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ	密	良	橙5YR6/6	口縁部		010-05
				器高	1.6	内面:ヨコナデ、ナデ				1/12		
24	須恵器	杯	SB10165	底径	5.9	外面:ロクロナデ、糸切痕	密	良	灰白2.5YR7/1	底部		010-06
				残高	1.6	内面:ロクロナデ				3/12		
25	土製品	土鍋	SB10165	口径	4.2	外面:ナデ	密	良	浅黄橙10YR8/3	口縁部		010-08
				底径	1.6					完形		
26	土師器	甕A	SK10216	口径	15.9	外面:ヨコナデ、タタハケ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部	口縁部内面に煤付着	015-07
				残高	5.3	内面:ヨコナデ、ヨコハケ				2/12		
27	灰釉陶器	皿	SK10230	口径	14.7	外面:ロクロナデ、灰釉	密	良	灰黄2.5Y7/2	口縁部	トチン痕あり	009-03
				残高	2.4	内面:ロクロナデ、灰釉				1/12		
28	土師器	杯A	SK10230	口径	14.7	外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ	密	良	浅黄橙7.5YR8/4	口縁部		014-01
				器高	3.3	内面:ヨコナデ、ナデ				5/12		
29	土師器	杯A	SK10230	口径	16.4	外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部		014-02
				器高	3.3	内面:ヨコナデ、ナデ				2/12		
30	土師器	甕A	SK10230	口径	15.6	外面:ヨコナデ、ハケ、オサエ、ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部	内外面とも煤付着	014-03
				残高	14.5	内面:ヨコナデ、ナデ				10/12		
31	緑釉陶器	椀	SK10230 ±18~y2	口径	19.4	内外面:ナデ・緑釉・窯刻花文	やや粗	良	黒地:灰白2.5Y7/1 釉:浅黄2.5Y7/3	口縁部		001-01
				残高	4.2					2/12		
32	土師器	杯A	SB10166	口径	12.2	外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部		015-03
				器高	2.7	内面:ヨコナデ、ナデ				2/12		
33	土師器	杯A	SB10151	口径	13.7	外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ	密	良	灰白10YR8/2	ほぼ		011-05
				器高	3.4	内面:ヨコナデ、ナデ				完形		
34	灰釉陶器	椀	SB10155	底径	5.6	外面:ロクロナデ、貼付高台、糸切痕	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部		015-02
				残高	1.1	内面:ロクロナデ				6/12		
35	土師器	鉢	SB10171	口径	16.7	外面:ヨコナデ、ケズリ	密	良	橙2.5YR6/8	口縁部		011-06
				残高	2.4	内面:ヨコナデ、ナデ				2/12		
36	土師器	皿A	SB10152	口径	11.6	外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ	密	良	浅黄橙10YR8/3~灰黄褐10YR6/2	口縁部	器面剥離	006-05
				器高	1.4	内面:ヨコナデ				5/12		
37	土師器	椀A	SB10152	口径	12.6	外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ	密	良	外面:にぶい黄橙10YR7/2 内面:浅黄橙10YR8/3	口縁部		006-07
				器高	2.2	内面:ヨコナデ				3/12		
38	土師器	椀A	SB10152	口径	12.9	外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ	密	良	外面:にぶい黄橙10YR6/3 内面:橙2.5YR7/6	口縁部		006-09
				器高	2.7	内面:ヨコナデ				5/12		
39	土師器	椀A	SB10152	口径	12.8	外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4~灰黄褐10YR6/2	口縁部		006-04
				器高	3.0	内面:ヨコナデ、ナデ				2/12		
40	土師器	椀A	SB10152	口径	12.8	外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ	密	やや不良	外面:灰白10YR8/2 内面:浅黄橙10YR8/3	完形		005-08
				器高	2.7	内面:ヨコナデ						
41	土師器	椀A	SB10152	口径	12.8	外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ	密	良	外面:浅黄2.5Y8/3 内面:橙5YR6/8	口縁部	黒斑あり	006-06
				器高	2.9	内面:ヨコナデ、ナデ				6/12		
42	土師器	椀A	SB10152	口径	12.0	外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ	密	良	外面:浅黄橙10YR8/4 内面:にぶい黄橙10YR6/3	口縁部	煤付着	006-03
				器高	3.0	内面:ヨコナデ				6/12		
43	土師器	椀A	SB10152	口径	12.0	外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ	やや粗	良	橙2.5YR6/8	ほぼ		006-01
				器高	3.0	内面:ヨコナデ				完形		

第Ⅱ－3表　第167次調査　遺物観察表（1）

番号	器種	器形	地区 遺構	法量(cm)			調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
44	土師器	椀A	SH0152	口径 器高	12.2 2.9		外面:ナデ 内面:ナデ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部 3/12	煤付着	006-08
45	土師器	椀A	SH0152	口径 器高	13.3 3.4		外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面:ヨコナデ	密	良	外面:浅黄橙10YR6/3 内面:橙7.5YR6/6	口縁部 5/12	鉛油測墨あり	006-10
46	土師器	椀A	SH0152	口径 器高	13.8 3.2		外面:ナデ 内面:ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4~灰黄褐10YR5/2	口縁部<2/12	口縁部煤付着	006-02
47	土師器	椀A	SH0152	口径 器高	14.8 3.4		外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面:ヨコナデ	密	良	灰黄褐10YR6/2	口縁部<4/12	煤付着	005-07
48	土師器	椀A	SH0152	口径 器高	16.4 4.5		外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ、 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	外面:黄灰2.5Y4/1 内面:灰黄褐10YR6/2	口縁部<9/12	鉛油測墨薄い	005-06
49	土師器	鍋	SH0152	口径 器高 底径	25.6 24.3 22.6		外面:ヨコナデ、ハケ、オサエ、ナデ 内面:ヨコナデ、オサエ、ナデ	密	良	浅黄橙10YR8/4	全体<3/12	粘土接合痕	007-01
50	土師器	高杯	SH0152	脚高 中径	11.4 4.9		外面:ヘラケズリ 内面:工具ナデ、オサエ、ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	脚部片	下半被熱 煤付着	007-02
51	灰釉陶器	椀	SH0152	口径 器高 底径	2.5 8.2		外面:ロクロナデ、ナデ、ケズリ 内面:ロクロナデ、灰釉	密	良	胎土:灰白2.5Y7/1 釉:灰黄2.5Y7/2	底部< 3/12	内底面に墨痕	005-04
52	灰釉陶器	椀	SH0152	口径 器高 底径	15.8 4.8 7.7		外面:ロクロナデ、ケズリ、ナデ、灰釉 内面:ロクロナデ、灰釉	密	良	胎土:灰黄2.5Y7/2 釉:浅黄2.5Y7/3	底部< 8/12	墨痕付着 転用硯か	005-03
53	灰釉陶器	皿	SH0152	口径 器高 底径	13.1 2.9 7.1		外面:ロクロナデ、ナデ、糸切痕、灰釉 内面:ロクロナデ、灰釉	密	やや軟質	胎土:灰白2.5Y7/1 釉:浅黄2.5Y7/3	口縁部< 9/12		005-01
54	灰釉陶器	皿	SH0152	口径 器高 底径	14.1 2.9 6.8		外面:ロクロナデ、ナデ、糸切痕、灰釉 内面:ロクロナデ、灰釉	密	良	胎土:灰白2.5Y7/1 釉:灰オリーブ7.5Y6/2	口縁部< 7/12	口縁に輪花 (現存部に3ヶ所)	005-02
55	灰釉陶器	壺	SH0152	口径 器高	18.5 7.6		外面:ロクロナデ、灰釉 内面:ロクロナデ、灰釉	密	良	胎土:灰白2.5Y7/1 釉:灰オリーブ5Y5/3	口縁部< 3/12		005-05
56	鉄製品	釘	SH0152	-	-		-	-	-		6/12		012-08
57	土師器	杯A	SK0215	口径 器高	13.6 3.1		外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	1/12 完形	粘土接合痕	008-06
58	土師器	杯A	SK0215	口径 器高	14.6 2.6		外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	橙5YR6/6	口縁部< 2/12		008-07
59	鉄製品	釘	SK0215	-	-		-	-	-	-	6/12		008-08
60	土師器	皿A	SK0235	口径 器高	12.3 1.3		外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	橙7.5YR6/6	口縁部< 1/12		010-02
61	土師器	皿A	SK0235	口径 器高	21.7 2.3		外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	橙5YR6/6	口縁部< 1/12		009-06
62	土師器	杯A	SK0235	口径 器高	13.6 2.5		外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	浅黄橙7.5YR8/4	口縁部< 2/12		015-05
63	土師器	杯A	SK0235	口径 器高	15.5 2.3		外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	橙5YR6/6	口縁部< 1/12		015-04
64	土師器	甕A	SK0235	口径 器高	18.5 5.7		外面:ヨコナデ、ハケ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	浅黄橙10YR8/3	口縁部< 1/12		010-03
65	土師器	杯A	SK0237	口径 器高	15.5 3.7		外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	浅黄橙10YR8/3	口縁部< 3/12	粘土接合痕	009-01
66	金属製品	鋲頭?	SK0237	長径 短径 高さ	3.8 2.3 1.9		-	-	-	-	-	表面腐食? 重さ:37.7kg	014-04
67	土師器	小皿	SH0154	口径 器高	10.2 1.9		外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	浅黄橙10YR8/4	口縁部< 4/12		010-09
68	土師器	台付鉢	SH0154	口径 器高 底径	22.7 8.2 13.0		外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ、貼付高台 内面:ヨコナデ、ナデ、オサエ	密	良	浅黄橙10YR8/3	底部< 9/12	粘土接合痕	013-01
69	土師器	甕A	SH0154	口径 器高	15.0 19.3		外面:ヨコナデ、ハケ、ナデ、ケズリ 内面:ヨコナデ、ナデ、板ナデ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部< 6/12	外面に煤付着	013-02
70	白磁	椀	SH0154	口径 器高	15.6 2.2		外面:施釉 内面:施釉	密	良	灰白5GY8/1	口縁部< 1/12		012-06
71	緑釉陶器	椀	SD0208	底径 器高	7.6 1.9		外面:ロクロナデ、貼付高台、糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	黄橙:浅黄橙10YR8/3 釉:黄色KH7	底部< 3/12	レチン焼あり	013-03
72	陶器	瓶	SD0208	底径 器高	7.9 4.7		外面:ロクロナデ、貼付高台、糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	灰黄2.5Y7/2	底部< 3/12		009-05
73	陶器	壺	SK0236	口径 器高	6.5 3.3		外面:ロクロナデ、施釉 内面:ロクロナデ、施釉	密	良	黒N1.5/	口縁部< 2/12	自然釉?	009-04
74	土師器	皿A	q13 P5	口径 器高	11.8 1.2		外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	浅黄橙10YR8/4	口縁部< 3/12		011-04
75	土師器	皿A	s14 P1	口径 器高	11.2 1.9		外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部< 2/12	粘土接合痕	012-01
76	土師器	杯A	r19 P40	口径 器高	13.8 2.3		外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	にぶい橙5YR6/6	口縁部< 5/12		015-01
77	土師器	台付皿	s13 P5	口径 器高 底径	8.5 2.6 6.3		外面:ヨコナデ、貼付高台、ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	浅黄橙10YR8/4	口縁部< 5/12		011-08
78	ロクロ土師器	台付皿	包含層	口径 器高 底径	10.8 2.7 6.4		外面:ロクロナデ、貼付高台、糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	底部< 10/12		010-01
79	土師器	台付杯	r15 P3	口径 器高 底径	15.9 5.4 7.6		外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ、貼付高台、工具痕 内面:ヨコナデ、ナデ	やや粗	良	浅黄橙7.5YR8/3	口縁部< 5/12		012-05
80	土師器	三足盤?	包含層	幅 残高	3.4 5.9		外面:オサエ、ナデ	密	良		-	脚部 粘土接合痕	013-04
81	石製品	砥縁車	q21 P6粘	幅 高さ	4.7 1.4		外面:研磨、穿孔	-	-	-	1/12 完形		012-07

第Ⅱ－4表　第167次調査　遺物観察表（2）

り、建替えの可能性も考えられる。一方、調査区南半部では小規模な建物が集中して確認される。ＳＢ10165は、第152次調査で確認されているＳＢ9739やＳＢ9743と東西方向で並ぶ位置にある。斎宮Ⅱ－１～２期のある段階で柳原区画は、区画を南北に二分し、南半部には四面庇建物や三面庇建物など３棟の大型建物を配し、「ニワ」的空間を有する儀礼的空間が、北半部には小規模な建物が規則的に配置されていたことが判明している。ＳＢ10165はこの段階に北半部で規則的に配置される建物群を構成する１棟と考えられる。

斎宮Ⅱ－３～４期になると、掘立柱建物11棟となる。建物方向もＮ１～４°Ｗと変動が見られる。掘立柱建物は調査区の北半部と南半部に分かれ、調査区中央部は希薄となる。ＳＢ10160は５間×２間の東西建物で、ＳＢ10159の柱穴とほぼ重複することから建替えと考えられるが、これらの北側に位置するＳＢ10154も同規模の建物であり、時期も後続することから、一連の建物の可能性が考えられる。この時期には柳原区画の各所に５間×２間の東西建物が建てられているが、今回の調査区北半や南半部でも５間×２間の建物が重複して確認されており、柳原区画ではこの時期に５間×２間の東西建物がある程度のグループで配置されていた可能性も考えられよう。このほか、調査区北端で確認されたＳＢ10153は、梁行部分が溝持ちになる可能性が考えられる。溝持ち建物は、斎宮跡でこれまで斎宮Ⅰ－２期～Ⅱ－２期までのものが11例が確認されており、方格地割内では主に北東部に分布する[2]。ＳＢ10153も、こうした建物に類する可能性が考えられる。

また、ＳＫ10230およびr18－Ｐ２からは椀の内外面に除刻文が施された緑釉陶器が出土している。９世紀前葉の内外面に除刻文が施された精良なつくりの緑釉陶器は、第９－１・83・109・124・133・135次調査などで出土しており、鍛冶山西区画や西加座南区画で多く確認されているが、斎宮跡ではまだ極めて限定された場所での出土にとどまっている。今回柳原区画でもこうした緑釉陶器が出土したことは、同区画の性格を反映したものであろう。

斎宮Ⅲ期になると、掘立柱建物は３棟と減少するものの、土坑は増加している。建物方向はＮ４～6°Ｗと大きく振るようになる。

柳原区画北部を調査した第152・157次調査でも斎宮Ⅲ－２期以降建物が減少する傾向が確認されている。ただし、斎宮Ⅲ期においてもＳＢ10154のように５間×２間の規模を持つものが見られ、またＳＢ10169・10170も東西５間の規模になる可能性が高い。このように斎宮Ⅲ期にまで比較的大型の建物が数多く見られる点もまた、柳原区画の大きな特徴であると言えよう。

【註】

（1）藤沢良祐「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要』第３号、三重県埋蔵文化財センター、1994

（2）倉田直純「斎宮跡で確認の所謂「布掘」・「溝もち」掘立柱建物について」『斎宮歴史博物館　研究紀要　二十』斎宮歴史博物館、2011

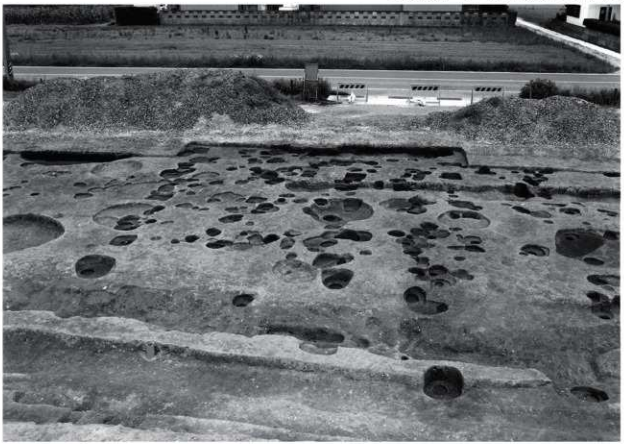
調査区全景（北から）

調査区全景（南西から）

写真図版Ⅱ－２　第167次調査　遺構（２）

ＳＢ10154（西から）

ＳＢ10154柱穴（ｒ13－Ｐ17）土器出土状況（東から）



ＳＢ 10165（西から）

ＳＢ 10159・10160（西から）

ＳＢ 10152 柱穴（ｓ13－Ｐ9）土器出土状況（東から）

ＳＥ 10210（南から）

1

8

10

28

29

33

39

40

41

42

46

48

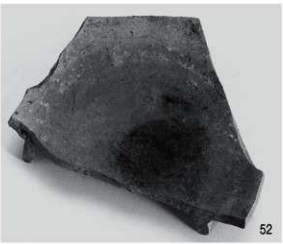
53

54

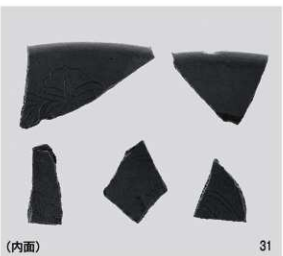
写真図版Ⅱ－6　第167次調査　遺物（2）

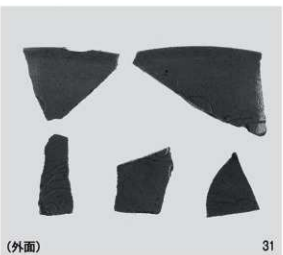
57

76


52

68


（内面）　31


（外面）　31

66

80

81

Ⅲ　第168次調査
(6AR10　下園東地区)

1　はじめに

第168次調査区は、史跡東部に位置する方格地割の北部、下園東区画に位置している。下園東区画では、これまで第８－10・10・18－１・18－２・23・47・129・166次調査が行われており、平安時代の掘立柱建物や区画東辺の道路が確認されている。柳原区画の北端を調査した第156次調査では、下園東区画南辺道路の南側溝を確認しており、今回の調査は、この道路の北側溝および下園東区画南東部の遺構状況を確認する目的で実施した。

調査は平成22年７月20日から平成22年８月30日まで実施し、調査面積は239㎡であった。

2　地形と層位

調査区は標高9.8 ～ 9.9m程度の平坦地であり、現況は畑地である。調査区の西側では約１mの段差を持った低地部が広がっている。この低地部では、平成21年度に第166次調査が行われており、土取りによって地形が大規模に改変され、遺構が削平されていることが確認されているが、もともと浅い谷状地形が存在していたことも判明している。

基本層位は、耕作土の下に黒褐色砂質土の包含層が約0.1m、その下に黒色シルトのいわゆる黒ボク層が約0.1m堆積し、表土下0.5 ～ 0.6mで黒褐色シルトもしくは灰白色粘土層を確認した。遺構は、黒ボク層上面で検出を試みたが、遺構の判別が困難であったため、灰白色粘土層上面で遺構を確認した。

3　遺構

この調査では、奈良時代末から近世までの掘立柱建物６棟、溝３条、土坑６基を確認した。

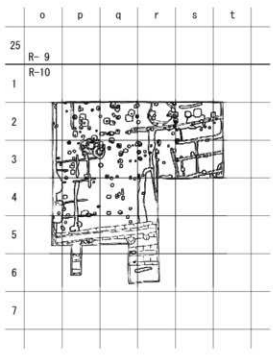
(1)斎宮Ⅰ－４～Ⅱ－１期の遺構

ＳＢ10241　調査区北端で確認した桁行５間×梁行２間と考えられる東西棟で、建物方向はＮ４°Ｗを測る。南側柱列のみを確認しており、北半は調査区外へ展開する。柱間は、桁行2.4m。柱堀形は一辺約0.8 ～ 0.9mの隅丸方形を呈する。土師器甕や志摩式製塩土器の破片が僅かに出土しているのみで、詳しい時期決定はできないが、遺構の重複関係からＳＢ10242やＳＫ10247に先行するものであり、Ⅱ－１～２期に相当するものと考えられる。

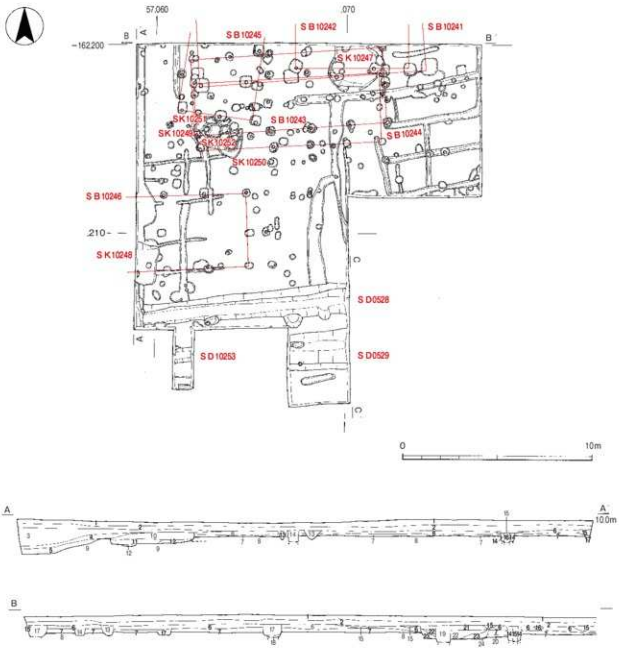
ＳＫ10248　調査区南西部で確認された土坑で、南北2.2m、深さ0.2mを測る方形の竪穴状土坑で、西半部は調査区外に展開する。遺構の北半部で土器が集中して出土している。出土遺物は土師器杯(５～９)・皿(10 ～ 13)・椀(14)・甕(15 ～ 18)・鍋(19 ～ 21)、須恵器杯(22)が出土している。出土遺物より、斎宮Ⅱ－１期に属するものと考えられる。

ＳＫ10250　調査区北西部に位置し、長辺約1.8m×短辺1.3m、深さ0.3mの楕円形を呈する土坑である。土師器杯(１～３)が出土しており、斎宮Ⅰ－４～Ⅱ－１期に相当する。重複するＳＫ10249の底では、ＳＫ10250を含めてＳＫ10251・10252を確認しているが、これらは、遺物から見て二つの土坑が重複していた可能性がある。

ＳＫ10251　ＳＫ10249の底部で確認された土坑で、



第Ⅲ－１図　第168次調査　グリッド図（1：400）



第Ⅲ－２図　第 168 次調査　遺構平面図（1：200）・土層断面図（1：100）

長辺1.6m×短辺1.0mの楕円形を呈する土坑である。暗文を施す土師器皿(4)のほか、土師器甕、須恵器甕が出土している。

ＳＤ0529　調査区南端部に位置する東西溝で、溝方向は概ねＥ4°Ｎであった。上部はＳＤ10253など後世の溝によって削平を受けており、溝の底部で黒褐色埋土の溝が幅1mほど残っていた。土師器高杯・把手付甕、須恵器甕の小片しか出土しておらず詳しい時期は不明だが、埋土の状況より、斎宮Ⅰ－4～Ⅱ－1期に属する可能性が高い。第10次調査区に続き、東西区画道路の北側溝にあたると考えられる。

(2)斎宮Ⅱ－2～3期の遺構

ＳＢ10242　調査区北端で東西に3間分確認した建物である。建物方向はＮ0°Ｗで、柱間は桁行2.0mを測る。柱堀形は一辺約0.7mの隅丸方形を呈する。土師器皿(59)・甕が出土しており、斎宮Ⅱ－2～3期に属するものと考えられる。

ＳＫ10247　調査区北端で確認した土坑で、東西3.0m×南北2.8m、深さ0.2mを測るが、北側は調査区外に展開する。黒褐色の埋土が堆積し、土坑の東半部で土器が集中して出土している。重複関係からＳＢ10241・10242よりも新しく、ＳＢ10244よりも古い。土師器皿(23～25・27)・杯(26・28～30・41・42・48)・椀(31～40・43～47)・甕(49～53)・鍋(54)、須恵器甕(57)、灰釉陶器椀(55・56)・壺(58)、志摩式製塩土器などが出土している。斎宮Ⅱ－2～3期に属するものと考えられる。

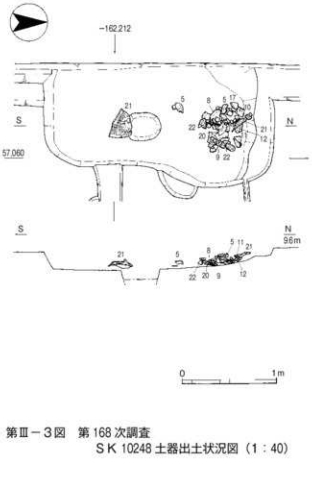
ＳＫ10249　調査区北西部に位置するＳＫ10250と重複する土坑で、長径2.9m×短径約1.7mの不正形を呈する。土師器杯(60～64)・皿(65)・高杯(66)・盤(67)・甕(68)・蓋(69)、須恵器杯蓋(70～72)が出土しており、斎宮Ⅱ－2期に相当する。

ＳＫ10252　ＳＫ10249の底部で確認した土坑で、一連の土坑である可能性がある。土師器皿、須恵器杯・壺などが出土している。

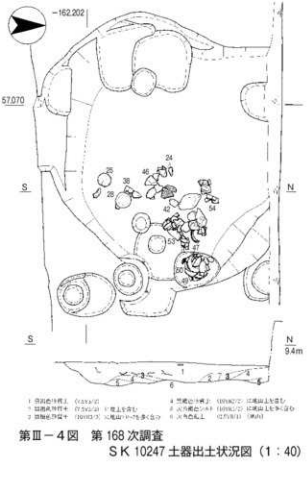
(3)斎宮Ⅱ－3～4期の遺構

ＳＢ10243　調査区北部に所在する桁行5間×梁行2間の東西棟で、柱間は桁行・梁行とも2.0mを測る。建物軸は、Ｎ4°Ｗである。遺構の重複関係より、ＳＫ10247より後出することから、斎宮Ⅱ－3～4期に属するものと考えられる。

ＳＢ10245　調査区北西部に所在する桁行2間以上



第Ⅲ－3図　第168次調査
ＳＫ10248土器出土状況図（1：40）



第Ⅲ－4図　第168次調査
ＳＫ10247土器出土状況図（1：40）

遺構名	調査時遺構名	ピット番号 ※( )はグリッド番号	時期	規模 間(m)×間(m)	柱間寸法 (m)	主軸	方位 (N規準)	備考
SB 10241	建物1	(p1)P6/(q1)P6/(r1)P12/(s1)P2	Ⅱ－1～2	5(12.0)×2？(-)	(桁行) 2.4 (梁行) －	東西	N4° W	SB10242・SK10247より古
SB 10242	建物2	(q3)P3/(r1)P8・P11/(s1)P5	Ⅱ－2～3	3(6.0)×2?(-)	(桁行) 2.0 (梁行) －	東西	N0° W	SK10247より新
SB 10243	建物3	(p1)P4・P8・P14/(q1)P9・P15・/(r1)P13・P14/(p2)P7/(q2)P5・P7・P8/(r2)P4・P5・P9	Ⅱ3～4	5(10.0)×2(4.0)	(桁行) 2.0 (梁行) 2.0	東西	N4° W	SK10247より新
SB 10244	建物5	(p1)P10・P16・P17/(q1)P5・P11/(r1)P3・P5・P9/(p2)P3・P6/(q2)P2・P9/(r2)P8・P10	Ⅱ	5(9.5)×2(3.8)	(桁行) 1.9 (梁行) 1.9	東西	N3° W	SK10247より新
SB 10245	建物4	(p1)P1・P5・P9/(q1)P7・P8/(q2)P4	Ⅱ3～4？	2以上(-)×2(4.0)	(桁行) 1.8 (梁行) 2.0	南北	N8° E	SK10249より新
SB 10246	建物6	(q3)P1	Ⅱ	2以上(-)×2(4.0)	(桁行) 2.2 (梁行) 1.8・2.2	東西	N3° W	SK10248より新

第Ⅲ－1表　第168次調査　堀立柱建物一覧表

遺構名	調査時遺構名	グリッド	時期	出土遺物	備考
SK 10247	土坑1	r1	Ⅱ-2～3	土師器皿・杯・椀・把手付甕・鍋、須恵器甕、灰釉陶器椀・壺、志摩式製塩土器、釘？	SB10244より古 SB10241・10242より新
SK 10248	土坑3	o3-o4	Ⅱ-1	土師器皿・杯・甕・鍋、須恵器杯	SB10246より古
SK 10249	土坑4	p1-p2	Ⅱ-2	土師器皿・杯・高杯・盤・甕、須恵器杯・杯蓋、灰釉陶器蓋	SK10248・10250～10252より新
SK 10250	土坑5	p2	Ⅰ-4～Ⅱ-1	土師器杯	SK10249より古
SK 10251	土坑6	p1-p2	Ⅰ-4～Ⅱ-1	土師器皿・甕、須恵器甕	SK10249より古
SK 10252	土坑7	p2	Ⅱ-2	土師器皿、須恵器杯・壺	SK10249より古
SD 0528	溝1	o4-r4	近世	土師器鍋、須恵器杯、近世陶器	概ねE6° N
SD 0529	溝21	p5-r4	Ⅰ-4～Ⅱ-1？	土師器高杯・把手付甕、須恵器甕	東西区画道路北側溝 SD10253より古
SD 10253	溝19	p5-r4	Ⅱ	土師器甕、陶器片	SD0529より新

第Ⅲ－2表　第168次調査　遺構一覧表

×梁行２間の南北棟で、北半部は調査区外に展開する。柱間は桁行1.8m×梁行2.0mを測り、建物軸はＮ８°Ｅ。柱堀形は一辺0.4～0.6m程度の方形もしくは長方形を呈する。ＳＫ10249に後出することから、斎宮Ⅱ－３～４期に属するものと考えられる。

（４）その他の時期の遺構

ＳＢ10244　ＳＢ10243に重複する桁行５間×梁行２間の東西棟で、建物軸はＮ３°Ｗ。柱間は桁行1.9m×梁行1.9mを測る。ＳＫ10247より後出することから、斎宮Ⅱ－３期以降のものであるが、ここでは２期の遺構としておく。

ＳＢ10246　調査区南西部に所在する桁行３間以上×梁行２間の東西棟で、西半部は調査区外に展開する。柱間は桁行2.2m×梁行1.8～2.2mを測り、建物軸はＮ３°Ｗ。ＳＫ10248に後出し、斎宮Ⅱ期に属するものと考えられる。

ＳＤ0528　調査区南部、ＳＤ0529の北側に位置する東西溝で、幅1.3～1.7mを測り、溝方向は概ねＥ６°Ｎである。埋土は暗灰黄色シルトで、天目茶椀などの陶器も出土している。第10次調査では鎌倉時代としているが、近世まで下るものと考えられる。

ＳＤ10253　ＳＤ0529に重複する溝で、幅0.8mを測る。埋土は灰黄褐色を呈し、埋土には土師器甕や陶器片を含む。斎宮Ⅱ期頃の遺構と考えられる。

４　遺物

（１）斎宮Ⅰ－４～Ⅱ－１期の遺物

ＳＫ10250出土遺物（１～３）　いずれも土師器杯Ａで、外面体部下半にはケズリが施される。２は外面にミガキ調整が、３は内面に放射状暗文および螺旋状暗文が施される。斎宮Ⅰ－４期のものである。

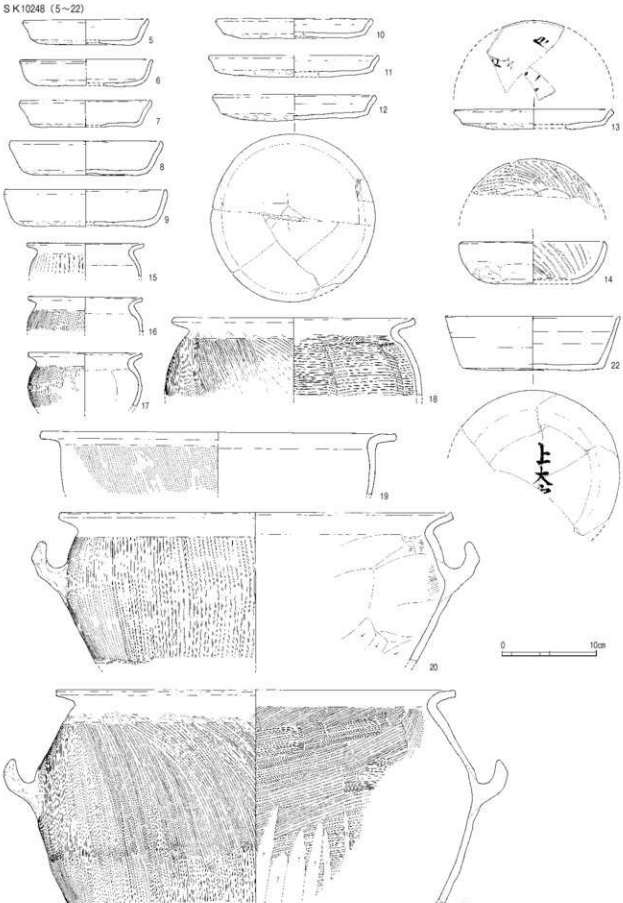
ＳＫ10251出土遺物（４）　土師器皿Ａ。外面体部下半にはケズリが、内面底部には螺旋状暗文が施される。斎宮Ⅰ－４期のもの。

ＳＫ10248出土遺物（５～22）　５～９は土師器杯Ａで、外面体部下半に指頭圧痕が見られる。10～13は土師器皿Ａで、体部外面下半にケズリが施される。12は外面底部に「木」状の刻書が見られる。13の内面底部には墨痕が残るが、判読は不明である。14は土師器椀で、内面に放射状暗文と螺旋状暗文が施される。15・16は土師器甕Ａ。15は外面のハケメがやや粗い。17は土師器甕Ｂで外面に把手の痕跡が残る。18は土師器甕Ｃ。19～21は土師器鍋。20・21は把手が付く土師器鍋Ｂである。22は須恵器杯Ａで、外面底部に「上大□」の墨書が認められる。三文字目は「宀」にも見え、「宮」であろうか。この遺構から出土した遺物は、主に斎宮Ⅱ－１期のものである。

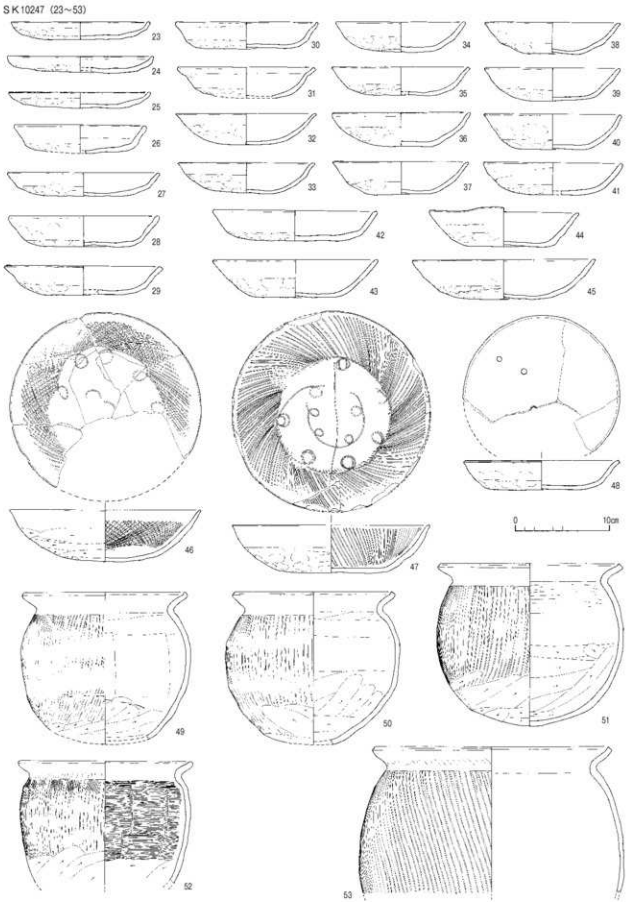
（２）斎宮Ⅱ－２～３期の遺物

ＳＫ10247出土遺物（23～58）　23～25・27は土師器皿Ａ。24は底部が窪む。27は内面に煤が付着している。26・28～30・42・48は土師器杯Ａ。26は口縁端部に油煙が、30は外面口縁部に粘土接合痕が残る。48は底面に焼成後穿孔が見られる。31～40・43～47は土師器椀Ａ。34・35・37には外面に粘土接合痕が残る。31は口縁端部が外に大きく開いている。44は歪みが大きく、口縁部が屈曲する。46は外面下半にケズリが施され、内面に格子状暗文および螺旋状暗文が施される。47は外面下半に指頭圧痕および粘土接合痕が見られる。内面には放射状暗文および螺旋状暗文が施される。41は土師器杯Ｇで、いわゆる「いなか風椀」と呼ばれるもの。器壁はやや厚く、口縁端部は丸い。外面に粘土接合痕が残る。49～52は土師器甕Ａ。50は強く火を受け変色している。53は土師器甕Ｃ。54は把手の付く土師器鍋Ｂである。55・56は灰釉陶器椀。58は灰釉陶器壺。底部には糸切り痕が残る。斎宮Ⅱ－２期のものであ

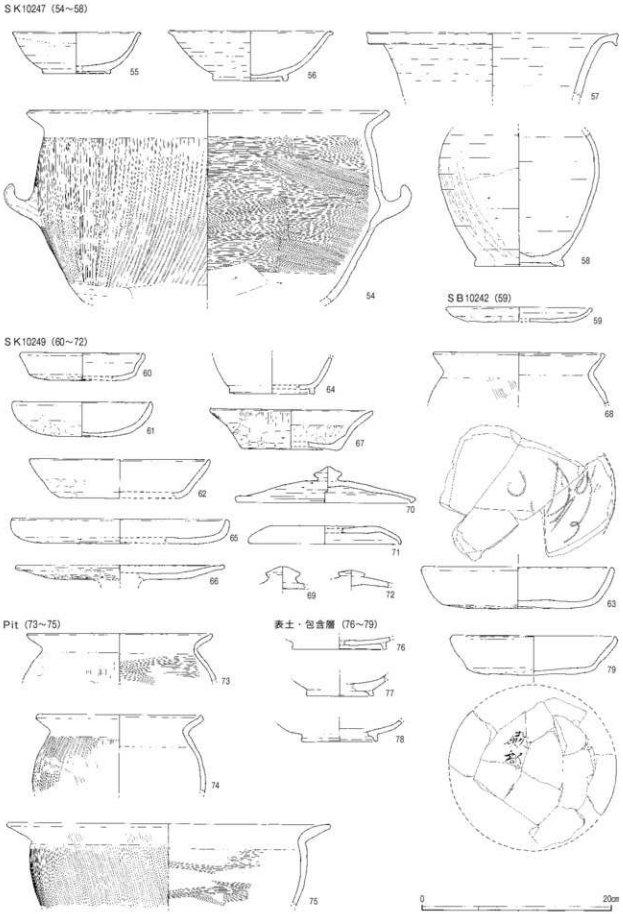
第Ⅲ－５図　第168次調査　出土遺物実測図①（１：４）



第Ⅲ－６図　第 168 次調査　出土遺物実測図②（1：4）



第Ⅲ－７図　第168次調査　出土遺物実測図③（1：4）



第Ⅲ－８図　第168次調査　出土遺物実測図④（1：4）

る。

ＳＫ10249出土遺物(60～72)　60・62・63は土師器杯Ａ。63の内面底部には螺旋状暗文が施される。61は土師器杯Ｇ。64は土師器杯Ｂで、貼付高台が見られる。65は土師器皿Ａで、外面底部にケズリが施される。66は土師器高杯。杯部外面にケズリが施される。67は土師器盤Ａで、外面にはケズリ、内面には指頭圧痕が見られる。68土師器甕Ａで、外面は摩滅が激しく、ハケメが僅かに残る。69は土師器杯蓋。70～72は須恵器蓋で、71は摘部が欠損している。斎宮Ⅱ－２～３期のものが大半を占めるが、63・65のように下部の遺構のものも混入している。

(３)その他の遺物

Pit 出土遺物(73～75)　73・74は土師器甕Ａで、74は外面に煤が付着する。75は土師器鍋Ａ。

表土・包含層出土遺物(76～79)　76～78は緑釉陶器椀。79は土師器杯Ａ。外面体部下半に指頭圧痕があり、外部底面には「殿部」の墨書が見られる。この墨書土器は斎宮Ⅱ－１期のものと考えられる。

５　まとめ

今回の調査は、下園東区画と柳原区画を画する東西区画道路の北側溝を確認することを目的としている。調査区南端で確認したＳＤ0529は、出土遺物からは詳しい時期が決定できないものの、溝の位置や埋土の状況から、方格地割造営期に遡る可能性が考えられる。周辺の調査で確認された東西道路は、側溝の外側で測ると50尺(14.8m)となり、路面幅は10～12mとなることが判明している。今回の調査で検出したＳＤ0529と第156次調査で確認した区画道路南側溝ＳＤ9871との間隔は、溝の内側間で約11.8mとなることから、遺物が出土していないものの区画道路の北側溝と推定できよう。

このほか、掘立柱建物は６棟確認している。調査区北端で確認したＳＢ10241は斎宮Ⅱ－１～２期と考えられるものであり、北側で行われた第18－２次調査で確認されている平安前期のＳＢ0930もＳＢ10241と23.7m(約80尺)の間隔をあけて柱筋をほぼ揃えている。東隣する西加座北区画で確認された寮庫とされる５間×２間の東西建物群と対応する位置にあり、下園東区画においても同様の建物群が存在する可能性が考えられる。

遺物では「殿部」と書かれた墨書土器が注目される。「殿部」は斎宮寮に置かれた十二の司のひとつで、湯沐や燈燭、清掃、舗設などの職務を担ったと考えられている。『延喜斎宮式』の新嘗祭条では、「殿部」が水槽類や灯明道具を準備し、年料としてもこれらの類のものが計上されていることから、斎王の入浴や灯りに関する事も司っていたと思われる。また、官司名墨書土器は、方格地割の中央部の西加座南区画周辺で多く出土しており、特に東加座北①区画で行われた第57次調査では「殿司」「殿」と墨書された土器が出土している。今回の調査では、このほか「上大□」と書かれた土器も出土しており、区画の性格を考える上で重要な資料と言える。

【参考文献】

・大川勝宏「斎宮跡方格地割に関する二・三の試論」『斎宮歴史博物館　研究紀要 十七』斎宮歴史博物館、2008

・『明和町史　斎宮編』明和町、2005

番号	器種	器形	地区遺構	法量(cm)		調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
1	土師器	杯A	SK10250	口径	14.8	外面:ヨコナデ、ケズリ	精良	不良	外面:橙7.5YR6/8	口縁部	器面剥離著しい	014-04
				器高	2.6	内面:ヨコナデ			内面:橙5YR6/8	2/12		
2	土師器	杯A	SK10250	口径	17.0	外面:ヨコナデ、ヘラミガキ、ケズリ	密	良	外面:橙7.5YR	口縁部		014-02
				器高	2.9	内面:ヨコナデ、ケズリ			内面:橙5YR6/6	3/12		
3	土師器	杯A	SK10250	口径	15.8	外面:ヨコナデ、ケズリ	密	良	明赤褐5YR5/6	口縁部		014-03
				器高	3.1	内面:ヨコナデ、放射状・螺旋状暗文				3/12		
4	土師器	皿A	SK10251	口径	22.4	外面:ヨコナデ、ケズリ	精良	良	橙7.5YR7/6	口縁部		014-05
				器高	2.7	内面:ヨコナデ、螺旋状暗文				4/12		
5	土師器	杯A	SK10248	口径	16.8	外面:ヨコナデ、オサエ後ナデ	密	やや不良	外面:橙7.5YR7/6	口縁部	器面剥離著しい	001-05
				器高	2.8	内面:ヨコナデ			内面:橙5YR6/8	11/12		
6	土師器	杯A	SK10248	口径	13.7	外面:ヨコナデ、オサエ後ナデ	密	良	橙5YR6/6	口縁部	粘土接合痕	016-02
				器高	2.4	内面:ヨコナデ、ナデ				2/12		
7	土師器	杯A	SK10248	口径	13.6	外面:ヨコナデ、オサエ後ナデ	精良	良	外面:明黄橙10YR7/6	口縁部		001-06
				器高	2.8	内面:ヨコナデ			内面:橙5YR6/8	5/12		
8	土師器	杯A	SK10248	口径	15.8	外面:ヨコナデ、オサエ後ナデ	密	良	外面:橙7.5YR7/6	口縁部	外底面に黒斑	001-02
				器高	3.6	内面:ヨコナデ			内面:灰黄褐10YR5/2	5/12		
9	土師器	杯A	SK10248	口径	16.8	外面:ヨコナデ、オサエ後ナデ	密	良	橙5YR6/8	口縁部		001-03
				器高	3.9	内面:ヨコナデ				5/12		
10	土師器	皿A	SK10248	口径	16.1	外面:ヨコナデ、オサエ後ナデ	密	良	橙5YR6/8	口縁部		010-02
				器高	2.1	内面:ヨコナデ				3/12		
11	土師器	皿A	SK10248	口径	17.6	外面:ヨコナデ、オサエ後ナデ	精良	良	橙5YR6/6	口縁部		010-03
				器高	2.3	内面:ヨコナデ				1/12		
12	土師器	皿A	SK10248	口径	16.8	外面:ヨコナデ、オサエ後ナデ	密	やや不良	橙5YR6/8	1日|完形	外面底部に刺書「木」?	010-01
				器高	2.8	内面:ヨコナデ						
13	土師器	皿A	SK10248	口径	16.4	外面:ヨコナデ、オサエ後ナデ	密	良	外面:にぶい黄橙10YR7/3	口縁部	内面底部に墨痕	010-04
				器高	2.1	内面:ヨコナデ			内面:橙5YR6/8	2/12		
14	土師器	椀A	SK10248	口径	14.9	外面:ヨコナデ、ケズリ	精良	良	橙5YR6/6	口縁部		010-05
				器高	4.5	内面:ヨコナデ、放射状・螺旋状暗文				4/12		
15	土師器	甕A	SK10248	口径	12.1	外面:ヨコナデ、ハケ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部	内外面に煤付着	017-04
				器高	3.7	内面:ヨコナデ、オサエ				2/12		
16	土師器	甕A	SK10248	口径	11.8	外面:ヨコナデ、ハケ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部		016-03
				残高	3.6	内面:ヨコナデ、ナデ				3/12		
17	土師器	甕B	SK10248	口径	18.4	外面:ヨコナデ、ハケ	密	良	外面:にぶい橙7.5YR6/4	口縁部	外面にススト付着	012-03
				器高	5.7	内面:ヨコナデ、板ナデ			内面:浅黄橙10YR8/4	2/12		
18	土師器	甕C	SK10248	口径	25.0	外面:ヨコナデ、ハケ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	胴部		012-02
				残高	8.2	内面:ヨコナデ、ハケ				3/12		
19	土師器	鍋A	SK10248	口径	37.0	外面:ヨコナデ、ハケ	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部		016-01
				残高	6.5	内面:ヨコナデ、ナデ				1/12		
20	土師器	鍋B	SK10248	口径	41.0	外面:ヨコナデ、ハケ、オサエ後ナデ	密	良	外面:にぶい橙7.5YR7/4	胴部		012-01
				残高	16.0	内面:ヨコナデ、板ナデ、ハケ、ケズリ			内面:黒褐7.5YR3/2	1/12		
21	土師器	鍋B	SK10248	口径	41.6	外面:ヨコナデ、ハケ、オサエ・ナデ	密	良	橙10YR7/4	口縁部		011-01
				残高	22.2	内面:ヨコナデ、ハケ、ケズリ				4/12		
22	須恵器	杯A	SK10248	口径	18.2	外面:ロクロナデ、ケズリ	密	良	灰白5Y7/1	全体	外面底部に墨書「上大口」	001-01
				器高	5.7	内面:ロクロナデ				6/12		
23	土師器	皿A	SK10247	口径	14.3	外面:ヨコナデ、オサエ後ナデ	密	良	浅黄橙10YR8/4	1日|完形		003-05
				器高	1.9	内面:ヨコナデ			~橙7.5YR7/6			
24	土師器	皿A	SK10247	口径	15.2	外面:ヨコナデ、オサエ後ナデ	密	良	橙5YR6/6	全体		003-06
				器高	1.8	内面:ヨコナデ				11/12		
25	土師器	皿A	SK10247	口径	14.6	外面:ヨコナデ、オサエ後ナデ	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部	器面剥離著しい	006-04
				器高	1.7	内面:ヨコナデ				10/12		
26	土師器	椀A	SK10247	口径	13.6	外面:ヨコナデ、オサエ後ナデ	密	良	橙5YR6/8	全体	口縁端に油煙付着	009-06
				器高	3.0	内面:ヨコナデ				10/12		
27	土師器	皿A	SK10247	口径	15.7	外面:ヨコナデ、オサエ後ナデ	密	良	外面:明黄橙10YR7/6	全体	内面にススト付着	006-02
				器高	2.3	内面:ヨコナデ			内面:赤橙5YR5/6	6/12		
28	土師器	杯A	SK10247	口径	15.5	外面:ヨコナデ、オサエ後ナデ	密	良	外面:にぶい橙7.5YR5/3	完形	内底面黒斑	009-07
				器高	3.3	内面:ヨコナデ			内面:黄灰2.5Y4/1			
29	土師器	杯A	SK10247	口径	16.1	外面:ヨコナデ、オサエ後ナデ	密	良	外面:灰黄褐10YR6/2	全体		007-02
				器高	3.1	内面:ヨコナデ			内面:にぶい黄橙10YR7/4	9/12		
30	土師器	椀A	SK10247	口径	14.9	外面:ヨコナデ、オサエ後ナデ	精良	良	橙5YR6/6	全体	粘土接合痕	004-04
				器高	2.8	内面:ヨコナデ				9/12		
31	土師器	椀A	SK10247	口径	14.2	外面:ヨコナデ、オサエ後ナデ	やや粗	良	外面:にぶい黄橙10YR7/4	全体		009-05
				器高	3.2	内面:ヨコナデ			内面:橙5YR6/6	10/12		
32	土師器	椀A	SK10247	口径	14.6	外面:ヨコナデ、オサエ後ナデ	やや不良	良	外面:橙5YR6/8	口縁部	器面磨耗	003-04
				器高	3.3	内面:ヨコナデ			内面:にぶい黄橙10YR6/3	5/12		
33	土師器	椀A	SK10247	口径	14.2	外面:ヨコナデ、オサエ後ナデ	密	良	橙5YR6/6	口縁部		003-03
				器高	3.3	内面:ヨコナデ				6/12		
34	土師器	椀A	SK10247	口径	13.4	外面:ヨコナデ、オサエ後ナデ	密	良	橙5YR6/6	全体	粘土接合痕	006-05
				器高	3.2	内面:ヨコナデ				11/12		
35	土師器	椀A	SK10247	口径	14.2	外面:ヨコナデ、オサエ後ナデ	密	良	外面:にぶい橙7.5YR6/4	口縁部	粘土接合痕	004-05
				器高	3.0	内面:ヨコナデ			内面:にぶい橙7.5YR6/3	5/12		
36	土師器	椀A	SK10247	口径	14.6	外面:ヨコナデ、オサエ後ナデ	密	良	橙5YR6/6	完形		006-03
				器高	3.6	内面:ヨコナデ						
37	土師器	椀A	SK10247	口径	14.0	外面:ヨコナデ、オサエ後ナデ	密	良	橙7.5YR7/6	全体	外底面に黒斑	007-06
				器高	3.5	内面:ヨコナデ				10/12	粘土接合痕	
38	土師器	椀A	SK10247	口径	13.9	外面:ヨコナデ、オサエ後ナデ	密	やや不良	外面:橙7.5YR7/6	口縁部		007-03
				器高	3.3	内面:ヨコナデ			内面:にぶい橙7.5YR7/4	5/12		
39	土師器	椀A	SK10247	口径	14.0	外面:ヨコナデ、オサエ後ナデ	密	良	外面:浅黄橙10YR8/4	全体	内底面に黒斑	007-05
				器高	3.5	内面:ヨコナデ			内面:灰5Y4/1	10/12		
40	土師器	椀A	SK10247	口径	14.2	外面:ヨコナデ、オサエ後ナデ	密	良	外面:橙7.5YR6/6	全体		007-04
				器高	3.7	内面:ヨコナデ			内面:橙5YR6/6	11/12		
41	土師器	椀G	SK10247	口径	14.4	外面:ヨコナデ、オサエ後ナデ	密	良	外面:にぶい黄橙10YR7/4	口縁部	粘土接合痕	004-03
				器高	3.4	内面:ヨコナデ			内面:橙7.5YR7/6	5/12		

第Ⅲ－３表　第168次調査　遺物観察表（１）

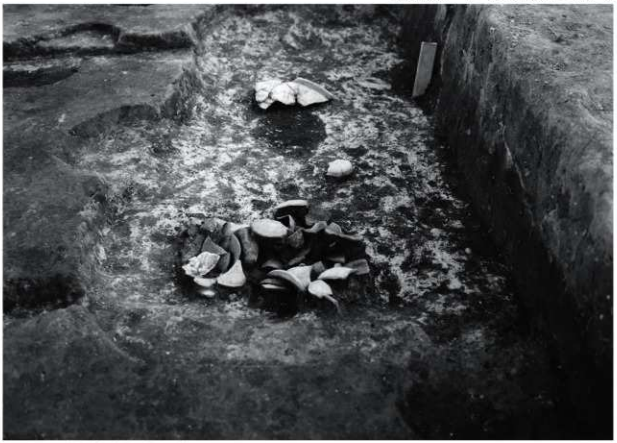
番号	器種	器形	地区遺構	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
42	土師器	杯A	SK10247	口径 17.0 器高 3.2	外面:ヨコナデ、オサエ後ナデ 内面:ヨコナデ	密	良	外面:灰白10YR8/2 内面:浅黄橙7.5YR8/4	口縁部 5/12		004-06
43	土師器	椀A	SK10247	口径 17.1 器高 4.0	外面:ヨコナデ、オサエ後ナデ 内面:ヨコナデ	密	良	外面:明黄褐10YR6/6 内面:橙5YR6/6	口縁部 3/12		005-02
44	土師器	椀A	SK10247	口径 15.6 器高 4.2	外面:ヨコナデ、オサエ後ナデ 内面:ヨコナデ	密	良	外面:にぶい黄橙10YR7/4 内面:橙7.5YR6/6	口縁部 9/12	口縁部歪み	009-08
45	土師器	椀A	SK10247	口径 19.0 器高 4.2	外面:ヨコナデ、オサエ後ナデ 内面:ヨコナデ	密	良	外面:橙5YR6/6 内面:にぶい橙7.5YR6/3	口縁部 3/12	粘土接合痕	005-03
46	土師器	椀A	SK10247	口径 19.9 器高 5.5	外面:ヨコナデ、ケズリ 内面:ヨコナデ、斜格子状・螺旋状暗文	密	良	橙5YR6/8	全体 8/12		008-01
47	土師器	椀A	SK10247	口径 20.6 器高 5.1	外面:ヨコナデ、オサエ後ナデ 内面:ヨコナデ、放射状・螺旋状暗文	密	良	橙7.5YR7/6	完形	粘土接合痕	008-02
48	土師器	杯A	SK10247	口径 16.0 器高 3.1	外面:ヨコナデ、オサエ後ナデ 内面:ヨコナデ	やや粗	良	橙7.5YR7/6	口縁部 7/12	底面3ヶ所慢成痕 穿孔	007-01
49	土師器	甕A	SK10247	口径 16.8 胴径 17.8 残底 15.6	外面:ヨコナデ、ハケ、ケズリ 内面:ヨコナデ、板ナデ、ケズリ	密	良	外面:橙5YR7/6 内面:灰黄褐10YR5/2	口縁部 7/12	外面に煤付着 粘土接合痕	004-01
50	土師器	甕A	SK10247	口径 16.5 胴径 18.4 残底 16.1	外面:ヨコナデ、ハケ、ケズリ 内面:ヨコナデ、板ナデ、ケズリ	密	良	外面:にぶい黄橙10YR7/4 内面:にぶい黄橙10YR7/4	全体 8/12	外面被熱変色	004-02
51	土師器	甕A	SK10247	口径 18.7 胴径 19.6 残底 17.2	外面:ヨコナデ、ハケ、ケズリ 内面:ヨコナデ、ハケ後ナデ、ケズリ	密	良	外面:にぶい黄橙10YR7/4 内面:黒褐2.5Y3/1	口縁部 4/12		003-02
52	土師器	甕A	SK10247	口径 17.8 胴径 18.0 残底 13.0	外面:ヨコナデ、ハケ、ケズリ、 内面:ヨコナデ、ハケ、ケズリ	密	良	外面:褐灰黄2.5Y5/2 内面:にぶい黄橙10YR7/3	口縁部 5/12	外面に煤付着	003-01
53	土師器	甕C	SK10247	口径 21.5 残底 15.5	外面:ヨコナデ、ハケ 内面:ヨコナデ、ナデ	厳密	良	外面:浅黄橙7.5YR8/4 内面:浅黄橙10YR8/4	口縁部 4/12	煤付着	006-01
54	土師器	鍋A	SK10247	口径 37.4 残底 20.4	外面:ヨコナデ、ハケ、オサエ、ケズリ 内面:ヨコナデ、ハケ、オサエ、ケズリ	密	良	外面:浅黄橙10YR8/4 内面:橙7.5YR7/6	口縁部 2/12		005-01
55	灰釉陶器	椀	SK10247	口径 13.2 器高 4.4 底径 7.0	外面:ロクロナデ、貼付高台 内面:ロクロナデ	密	良	胎土:灰白2.5Y8/1 釉:オリーブ黄5Y6/3	高台部 5/12		009-03
56	灰釉陶器	椀	SK10247	口径 16.9 器高 5.25 底径 7.6	外面:ロクロナデ、ケズリ、貼付高台 内面:ロクロナデ	密	良	胎土:灰白2.5Y7/1 釉:灰白5Y7/2	口縁部 3/12		009-02
57	須恵器	甕A	SK10247	口径 26.3 残底 6.8	外面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ	密	良	外面:黄灰2.5Y4/1 内面:黄灰2.5Y6/1	口縁部 2/12		009-04
58	灰釉陶器	長頸壺	SK10247	底径 9.0 胴径 16.8 残底 14.2	外面:ロクロナデ、ケズリ、貼付高台 内面:ロクロナデ	密	良	胎土:灰白2.5Y7/1 釉:浅黄5Y7/3	全体 6/12	底部糸切痕	009-01
59	土師器	皿	SB10242	口径 14.9 器高 1.5	外面:ヨコナデ、オサエ後ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	橙5YR6/6	口縁部 3/12		015-01
60	土師器	杯A	SK10249	口径 12.8 器高 2.9	外面:ヨコナデ、オサエ後ナデ 内面:ヨコナデ	精良	良	橙5YR6/6	口縁部 4/12		013-07
61	土師器	杯C1	SK10249	口径 14.4 器高 3.7	外面:ヨコナデ、オサエ後ナデ 内面:ヨコナデ	密	良	浅黄橙10YR8/3	口縁部 4/12		014-01
62	土師器	杯A	SK10249	口径 18.7 器高 4.1	外面:ヨコナデ、ケズリ 内面:ヨコナデ	密	良	橙5YR7/6	口縁部 2/12		016-05
63	土師器	杯A	SK10249	口径 19.8 器高 4.4	外面:ヨコナデ、ケズリ 内面:ヨコナデ、放射状・螺旋状暗文	精良	良	外面:橙7.5YR6/6 内面:にぶい橙7.5YR5/4	全体 6/12		013-06
64	土師器	杯B1	SK10249	底径 8.6 器高 3.9	外面:ヨコナデ、 貼付高台 内面:ヨコナデ	精良	良	外面:橙7.5YR7/6 内面:橙5YR6/6	高台 2/12		013-05
65	土師器	皿A	SK10249	口径 22.5 器高 2.6	外面:ヨコナデ、ケズリ 内面:ヨコナデ	密	不良	外面:橙7.5YR7/6 内面:にぶい橙7.5YR6/4	口縁部 3/12	器面剥離著しい	013-04
66	土師器	高杯	SK10249	口径 21.7 残底 1.6	外面:ヨコナデ、ケズリ、暗文 内面:ヨコナデ	精良	やや不良	外面:橙5YR6/8 内面:橙7.5YR6/8	口縁部 4/12	粘土接合痕 器面剥離著しい	013-03
67	土師器	甕A	SK10249	口径 16.9 器高 4.2	外面:ヨコナデ、ケズリ 内面:ヨコナデ	密	良	外面:橙5YR6/8 内面:灰7.5Y5/1	口縁部 4/12		013-02
68	土師器	甕A	SK10249	口径 17.4 器高 5.4	外面:ヨコナデ、ハケ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	にぶい橙7.5YR6/4	口縁部 2/12		016-06
69	土師器	杯蓋	SK10249	残高 2.4	外面:ナデ、ヨコナデ 内面:ナデ	密	良	橙5YR6/6	小片		017-01
70	須恵器	蓋	SK10249	口径 18.4 器高 3.8	外面:ケズリ、ロクロナデ 内面:ロクロナデ	密	良	黄灰2.5Y6/1	全体 8/12		013-01
71	須恵器	蓋	SK10249	口径 15.8 器高 1.9	外面:ヨコナデ、ケズリ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	黄灰2.5Y6/1	口縁部 2/12		016-04
72	須恵器	蓋	SK10249	残高 1.7	外面:ナデ、ロクロナデ 内面:ロクロナデ	密	良	黄褐:灰白 釉:褐灰黄2.5Y5/2	小片		017-02
73	土師器	甕A	p02 P1/2	口径 19.2 残底 4.9	外面:ヨコナデ、ハケ 内面:ヨコナデ、ハケ	密	良	灰白10YR8/2	口縁部 3/12		015-04
74	土師器	甕A	r01 P1/10	口径 17.0 残底 8.4	外面:ヨコナデ、ハケ 内面:ヨコナデ、オサエ	密	良	浅黄橙10YR8/3	口縁部 5/12	外面に煤付着	015-02
75	土師器	鍋A	p02 p014	口径 33.6 残底 8.8	外面:ヨコナデ、ハケ 内面:ヨコナデ、ハケ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部 1/12		015-03
76	緑釉陶器	椀	p01 表土	残底 1.3	外面:ロクロナデ、糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	豌豆緑8836	底部 4/12	トチン痕あり	017-03
77	緑釉陶器	椀	p02 表土	口径 6.8 器高 2.4	外面:ロクロナデ、貼付高台、糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	草色834	底部 1/12		017-06
78	緑釉陶器	椀	p01 包含層	口径 7.8 器高 2.2	外面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ	密	良	威光茶990	底部 1/12		017-05
79	土師器	杯A	q03 包含層	口径 17.1 器高 4.2	外面:ヨコナデ、オサエ後ナデ 内面:ヨコナデ	精良	良	橙5YR6/6	全体 8/12	外面底部墨書「殿部」	002-01

第Ⅲ－４表　第168次調査　遺物観察表（２）

写真図版Ⅲ－1　第168次調査　遺構（1）

調査区全景（北から）

ＳＢ 10241 ～ 10245（西から）



ＳＫ10248 土器出土状況（北から）

ＳＫ10248 完掘状況（東から）

写真図版Ⅲ－３　第168次調査　遺構（３）

ＳＫ10247 土器出土状況（西から）

ＳＫ10247 完掘状況（南から）

ＳＫ10249～10252（南から）

ＳＤ10254・10255（西から）

写真図版Ⅲ－5　第168次調査　遺物（1）

7

8

12

23

24

25

26

28

29

30

31

32

34

36

37

38

46

47

46

47

50

51

写真図版Ⅲ－6　第168次調査　遺物（3）

39

40

42

44

61

69

48

58

22

79

Ⅳ　第169次調査
（6AQ11　御館地区）

1　はじめに

第169次調査区は、史跡東部に位置する方格地割の西部、御館区画の南西部に位置している。御館区画では、これまで第８－９・19・55・94・128－５・129次調査が行われており、古代伊勢道や平安時代初期～後期の掘立柱建物、方格地割の東西道路を確認している。今回の調査区は、方格地割の東西区画道路の確認を目的として調査を実施した。

調査は平成22年９月27日から平成22年10月25日まで実施し、調査面積は71㎡である。

2　地形と層位

調査区は標高約11.3ｍの平坦地であるが、以前は宅地であり造成のための盛土が行われていたものと思われる。

基本層位は、砕石および近代の盛土が行われ、その下に黒褐色砂質土が0.2 ～ 0.4ｍ堆積しており、近世以降の造成土と考えられる。地表下約0.8ｍで明褐色粘土の地山面を確認した。

3　遺構および遺物

調査区では、ほぼ全面で地表下約0.8ｍまで攪乱を受けており、特に調査区中央部では約1.0ｍまで攪乱を受けていた。遺構は、地山面で溝やピットの痕跡をわずかに確認したのみである。

攪乱土坑埋土には、土師器焙烙（１・２）のほか、近世陶磁器類、近世瓦などが多数含まれており、これらの攪乱は近世後期以降のものと考えられる。

ＳＤ10260は、調査区中央の攪乱底面で確認した溝で、深さ約0.1ｍが残っており、埋土は黒褐色砂質土であった。溝方位はＥ19.5°Ｎを測る。土師器や須恵器片がわずかに出土しているが、時期は不明。

遺物は、攪乱土坑から土師器焙烙や陶磁器類、瓦などが出土しているが、奈良～平安時代の遺物は、土師器片や須恵器片がわずかに出土したのみである。土師器焙烙（１・２）は調査区中央部の攪乱土坑底部から出土したもので、直径36.5 ～ 37.7cm を測る。体部下半は内外面ともヘラケズリが施され、器壁は0.2 ～ 0.3cm と薄い。口縁部には煤が付着していた。伊藤裕偉氏の南伊勢系土器編年[1]の第４段階以降に相当するものと考えられる。

4　まとめ

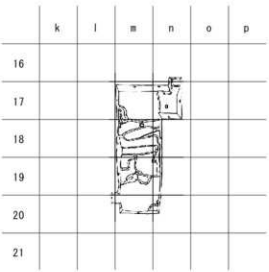
御館区画南辺の区画道路は、第47調査や第128－５・164次調査で側溝が確認されており、北側溝は今回の調査区北半部へと続いている。しかし、今回の調査では、北側溝推定部分から遺構は確認できなかった。第128－５次調査で確認された北側溝の底面は、標高10.8ｍであり、今回の調査区では、浅い部分でも10.8ｍ前後まで攪乱を受けていたことから、北側溝はすでに削平を受けていたものと考えられる。南側溝および御館区画西辺の区画道路東側溝については、調査区外に存在するものと考えられる。攪乱土坑については、御館区画の西部では第８－９・94・129次調査でも確認されており、粘土採掘が広範囲で行われていたものと考えられよう。

【註】

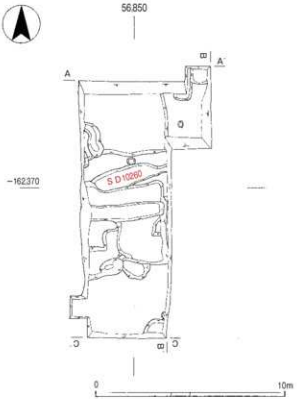
(1)伊藤裕偉「伊勢の中世煮沸用土器から東海を見る」『鍋と甕そのデザイン』東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会、1996

番号	器種	器形	地区遺構	法量（cm）	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
1	土師器	焙烙	m19 攪乱土坑	口径 36.5 残高 5.3	外面：ヨコナデ、ナデ、ケズリ 内面：ヨコナデ、ナデ、ケズリ	密	良	橙5YR6/6	口縁部 5/12	内外面煤付着	001-01
2	土師器	焙烙	m19 攪乱土坑	口径 37.7 残高 7.4	外面：ヨコナデ、ナデ、ケズリ 内面：ヨコナデ、ナデ、ケズリ	密	良	橙5YR6/6	口縁部 6/12	内外面煤付着	001-02

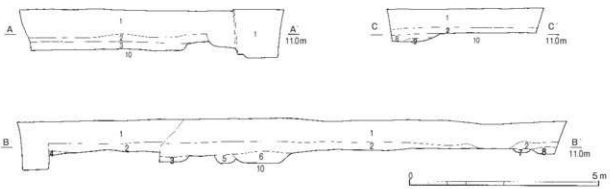
第Ⅳ－１表　第169次調査　遺物観察表



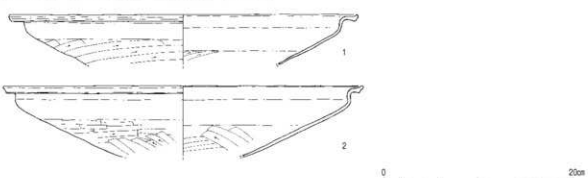
第Ⅳ－１図　第 169 次調査　グリッド図（1：400）



第Ⅳ－２図　第 169 次調査　遺構平面図（1：200）



第Ⅳ－３図　第 169 次調査　土層断面図（1：100）



第Ⅳ－４図　第 169 次調査　出土遺物実測図（1：4）

調査区全景（北から）

調査区全景（南から）

写真図版Ⅳ－２　第169次調査　遺構（２）・遺物

調査区北半部（西から）

出土遺物

V　第171次調査
(6AR11　牛葉東地区)

1　はじめに

第171次調査区は、史跡東部の方格地割、牛葉東区画の北東隅に位置する。当該区画は、斎王の居所である「内院」に想定されている区画である。牛葉東区画では、これまでに第10・17－1・17－2・103・108・114・151－12・163次調査が行われている。特に近鉄線以北の調査では、平安時代初頭の大規模な掘立柱塀が確認されたほか、平仮名墨書土器を含む多量の土器が出土している。平成21年度に行われた第163次調査は、今回の調査区の東隣にあたり、区画内を細分する平安時代後期の溝を確認し、平仮名墨書土器や陶枕、サイコロ状土製品などが出土している。今回の調査は、この溝の続きを確認し、出土遺物の検討も含めた牛葉東区画の実態解明を目的として実施した。

調査期間は平成22年6月24日から平成22年11月18日までで、調査面積は37㎡である。

2　地形と層位

調査地は標高10.8mの平坦地だが、北隣の第159次調査区は9.9～10.4mで、旧地形は北へ向かって緩やかに傾斜し、東西方向の浅い谷となっていたことが確認されている。基本層位は、灰黄褐色砂質土の表土下に、土器を多量に含むにぶい黄褐色砂質土の遺物包含層があり、地表下約0.4～0.5mで、黄燈色粘土の地山面を確認した。調査区南端1mは第114次調査区と重複する。

3　遺構

この調査では、掘立柱建物1棟および溝5条、土坑2基を確認した。

SB10261　調査区北端で確認した桁行3間以上×梁行2間の東西棟と考えられる建物。柱間は桁行2.0mで、建物軸はN0°W。柱堀形は一辺約0.6mの方形を呈し、柱痕跡は直径0.3m前後を測る。ただし、南東隅の柱掘形は長辺0.8m×短辺0.6mの長方形を呈し、その北側の柱掘形も一辺約0.8mであることから、東側柱列は掘形の規模が大きい可能性も考えられる。溝の底部で遺構を検出していることから、SD10118・SK10262よりも古い。土師器杯(1・2)、須恵器杯蓋・甕、灰釉陶器椀などが出土しており、斎宮Ⅱ－3期に相当する。

SD10116　SD10117・10118に重複する溝で、調査区の東部で底部の痕跡が確認されている。土師器小皿(83)・台付皿・甕、白玉石(84)、炭化材が出土

第V－1図　第171次調査　遺構平面図(1：200)・土層断面図(1：100)

している。平安時代後期の溝の中では、もっとも古く、斎宮Ⅲ－２期に相当する。

ＳＤ10117　調査区中央に位置する東西方向の溝で、深さは0.7m。溝の北半がＳＤ10118・10119によって削平を受けるため、幅は不明。溝は土層より上下の２つに大別でき、さらに上半部の検出面直下部分で土器がまとまって出土した部分を上層、上半部の下半を中層として捉えた。土器は上・中層を中心に、土師器皿・小皿やロクロ土師器小皿を主体とした大量の遺物（３～47）が出土し、輪羽口(22)や鉄釘(23・47)・鉄滓も出土している。「いろは歌」の書かれた平仮名墨書土器(46)も溝上層から出土している。これら出土遺物の形式から斎宮Ⅲ－３期に相当する。

ＳＤ10118　ＳＤ10117の北側に重複する溝で、幅1.7m×深さ0.7mを確認した。上層・中層・下層に分けられ、土師器杯や皿を中心とした土器(48～66)が大量に出土している。また、上層からは刀子(67)も出土している。斎宮Ⅲ－３期に相当する。

ＳＤ10119　ＳＤ10118の上層に位置する溝で、調査区の東端では幅２m、深さ約0.5mの規模を確認したが、西端では幅0.8m、深さ約0.1mと小規模になっており、遺構は調査区の西で終わるものと考えられる。土師器小皿(68～73)・皿(74・75)、陶器椀(76)、墨書土器(77)が出土している。斎宮Ⅲ－３期からそれに後続する時期に相当する。

ＳＤ10263　ＳＤ10118の北側に位置する溝で、幅0.3m、深さ0.15mを測る。遺構の重複関係からＳＢ10261よりも新しい。土師器小皿(82)・須恵器甕が出土しており、斎宮Ⅲ－２～３期に相当する。

ＳＫ7662　調査区南東部に位置する土坑で、南半部は第114次調査で検出されている。長径3.0m×短径1.7m、深さ約0.15mの隅丸長方形を呈する。土師器杯(81)・皿(80)・台付皿・高杯が出土している。斎宮Ⅲ－３期以降に相当する。

ＳＫ10262　調査区北東部に位置する土坑で、長径1.4m×短径0.8m、深さ0.4mの楕円形を呈する。遺構の重複関係から、ＳＢ10261やＳＤ10119よりも新しいと判断される。土師器小皿(78)・皿(79)・台付皿が出土している。斎宮Ⅲ－３期に相当する。

４　遺物

ＳＢ10261出土遺物（１・２）　ともに土師器杯で、外面体部上半まで指オサエが施され、口縁端部は外反している。１は柱掘形から、２は柱痕跡から出土した。斎宮Ⅱ－３～４期に相当する。

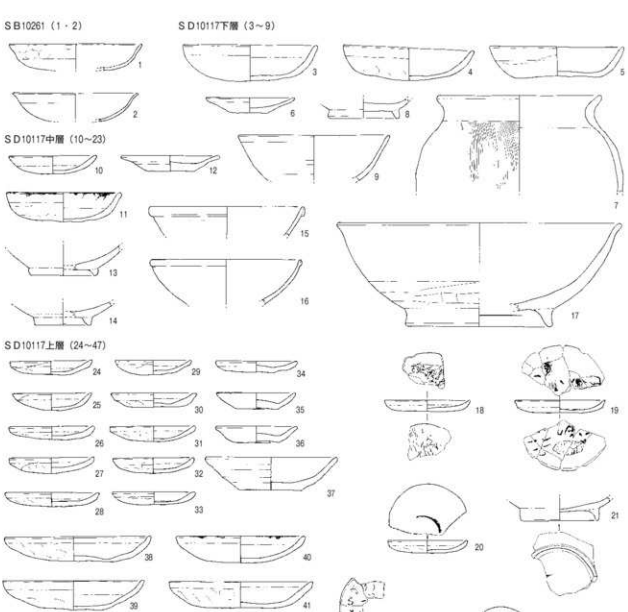
ＳＤ10117下層出土遺物（３～９）　３～５は土師器杯。４は体部外面下部に指頭圧痕が、５は粘土接合痕が残る。６はいわゆるロクロ土師器小皿で、底部に糸切痕が見られる。７は土師器甕で、口縁部はやや肥厚する。８は無釉の陶器椀（山茶椀）。９は白磁

遺構名	調査時遺構名	ピット番号 ※（　）はグリッド番号	時期	規模 間(m)×間(m)	柱間寸法(m)	主軸	方位(N規準)	備考
SB10261	建物1	(t18)P1/(r19)P2/(s19)P1・P2・P3	Ⅱ－３	3以上(-)×２９(-)	(桁行) 2.0 (梁行) －	東西	N 0° W	SD10118・10263よりも古

第Ⅴ－１表　第171次調査　掘立柱建物一覧表

遺構名	調査時遺構名	グリッド	時期	出土遺物	備考
SD 10117	溝2	r19-t20	Ⅲ－３	土師器杯・皿・台付皿・甕、ロクロ土師器皿、須恵器甕・鉢、灰釉陶器椀、輪羽口、釘	SD10118より古
SD 10118	溝1	r19-t19	Ⅲ－３	土師器皿	SD10119より古
SD 10116	溝4	r19-s19	Ⅲ－２	土師器皿・台杯皿・甕、白玉石、炭	SD10117・10118より古
SD 10119	溝3	r19-t19	Ⅲ－３～	土師器皿・台杯皿・高杯、陶器鉢	SD10117・10118より新
SD 10263	溝5	s19-t19	Ⅲ－２～3	土師器皿、須恵器甕	SB10161より新
SK 7662	土坑2	s20-t20	Ⅲ－３～	土師器杯・皿・台杯皿・高杯	
SK 10262	土坑13	r19-s19	Ⅲ－３	土師器杯・皿・台杯皿	SD10118・10119より新

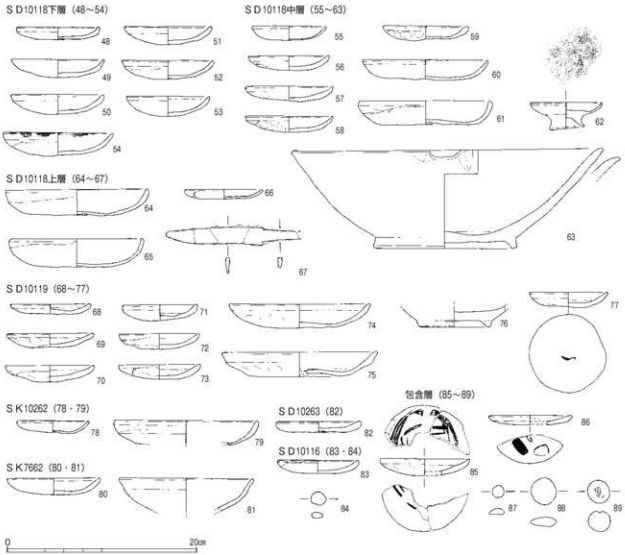
第Ⅴ－２表　第171次調査　遺構一覧表



第Ⅴ－２図　第171次調査　出土遺物実測図①（1：4）

椀で、表面はやや粗い。斎宮Ⅲ－３に相当する。

ＳＤ10117中層出土遺物(10～23)　10は土師器小皿。11は土師器杯で、外面体部には粘土接合痕が残り、口縁端部には油煙が激しく付着している。灯明皿として使われたものか。12はロクロ土師器小皿、13はロクロ土師器椀で高台がつく。14～16は白磁椀で、15・16は玉縁状の口縁を持つ。17は陶器鉢で、底面には糸切痕が残る。外面にはひび割れもあるが、つくりは全体的に丁寧で、内面には使用痕が認められる。18～20は土師器小皿で墨書が見られる。18は内外面とも、細い筆跡の墨書が見られる。内面には「天」とも読める字など多数書かれるが、判読は不明。外面も判読はできないが、平仮名状の文字が多数書かれており、習書と考えられる。19は人面



第Ⅴ－３図　第171次調査　出土遺物実測図②（1：4）

等の絵画が描かれており、内面には髭もしくは髪の毛状の線や目・眉とも考えられる線が見られる。外面は、眉・目・鼻が表現された人面が２つ確認できる他、大根状の絵画も見られるが、詳細は不明である。21は陶器椀（山茶椀）で、内面には墨痕が、外面底部には墨書が残る。22は輪羽口で強く被熱している。23は釘の頭部。斎宮Ⅲ－２～３期に相当する。

ＳＤ10117上層出土遺物（24～47）　24～33は土師器小皿。全体的に器壁は厚く、外面には指頭圧痕や粘土接合痕が見られる。34～36はロクロ土師器小皿で底部には糸切痕が残る。砂を多く含み、胎土はやや粗い。37はロクロ土師器杯。全体的に厚手で、堅く焼き締まる。38～41は土師器皿。40・41は口縁部に油煙が付着し、灯明皿と考えられる。42・43はロクロ土師器の台付皿で、外部底面には糸切痕が見られる。44は陶器の山茶椀。45は白磁椀で、口縁端部は僅かに肥厚する。46は土師器小皿で、内面には平仮名で「ぬるをわか」、外面には「つねなら」と書かれており、いろは歌の一部と考えられる。47は鉄製釘で、上端がＬ字状に曲がり、頭部と考えられる。これらは、斎宮Ⅲ－３期に相当する。

ＳＤ10118下層出土遺物（48～54）　48～53は土師器小皿。48は平底で、口縁端部がつまみ上げられ、外面に面を持つ。54は土師器皿で、口縁端部には油煙が多く付着している。外面には粘土接合痕が見られ、胎土には砂粒をやや含む。斎宮Ⅲ－３に相当する。

ＳＤ10118中層出土遺物（55～63）　55～59は土師器小皿で、外面には粘土接合痕や指頭圧痕が見られ

番号	器種	器形	地区遺構	法量（cm）			調整・技法の特徴	新土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
1	土師器	杯	SB0261	口径 残高	13.9 2.8		外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ	密	良	浅黄橙10YR8/4	口縁部 3/12		001-01
2	土師器	杯	SB0261	口径 残高	13.0 3.0		外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ、オサエ後ナデ	密	良	浅黄橙10YR8/3	口縁部 2/12		001-02
3	土師器	杯	SD0117 下層	口径 器高	14.0 3.8		外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	注記 完形		003-04
4	土師器	杯	SD0117 下層	口径 器高	11.5 3.8		外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	注記 完形		003-06
5	土師器	杯	SD0117 下層	口径 器高	13.8 3.3		外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ	密	良	明黄橙10YR7/6	口縁部 10/12	粘土接合痕	003-05
6	ロクロ 土師器	小皿	SD0117 下層	口径 残高	9.1 1.7		外面：ロクロナデ、糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部 7/12		003-08
7	土師器	甕	SD0117 下層	口径 残高	17.0 10.2		外面：ナデ、タテハケ 内面：ナデ	やや 密	良	黄橙10YR8/6	口縁部 2/12		005-02
8	陶器	椀 (山茶椀)	SD0117 下層	底径 残高	7.0 2.1		外面：ロクロナデ、貼付高台、 糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	灰黄2.5Y7/2	底部 完形		003-07
9	白磁	椀	SD0117 下層	口径 残高	15.8 4.9		外面：ロクロナデ、ロクロケズリ 内面：ロクロナデ	密	良	素地：暗灰黄2.5Y5/2 釉：灰白N6	口縁部 1/12		011-05
10	土師器	小皿	SD0117 中層	口径 残高	9.0 2.0		外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ	やや 密	良	灰白2.5YR8/2	注記 完形		004-009
11	土師器	杯	SD0117 中層	口径 器高	11.8 3.1		外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部 8/12	口縁端部に沿煤 粘土接合痕	004-002
12	ロクロ 土師器	小皿	SD0117 中層	口径 器高	10.0 2.6		外面：ロクロナデ、糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部 1/12		004-008
13	ロクロ 土師器	椀	SD0117 中層	底径 残高	6.6 3.3		外面：ロクロナデ、貼付高台、 糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	灰白7.5YR8/2	口縁部 3/12		004-007
14	白磁	椀	SD0117 中層	口径 残高	5.7 2.5		外面：ロクロナデ、ケズリ、 貼付高台、糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	素地：灰白2.5Y7/1 釉：灰白7.5Y7/1	底部 1/12		011-07
15	白磁	椀	SD0117 中層	口径 残高	16.0 3.1		外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	密	良	釉：灰白7.5Y7/1	口縁部 1/12		013-02
16	白磁	椀	SD0117 中層	口径 残高	15.6 4.8		外面：ロクロナデ、ケズリ 内面：ロクロナデ	密	良	釉：灰白5Y8/2	口縁部 1/12	内外面に貫入	013-01
17	陶器	鉢	SD0117 中層	口径 器高 底径	29.4 11.0 14.8		外面：ロクロナデ、ケズリ、 貼付高台、糸切痕、自然釉 内面：ロクロナデ	密	良	外面：灰N4/ 内面：浅黄2.5Y7/3	口縁部 4/12		006-01
18	土師器	小皿	SD0117 中層	口径 器高	8.3 1.2		外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ	密	良	灰白2.5YR/2	口縁部 1/12	内外面に墨書 漢字・ひらがなケ	011-02
19	土師器	小皿	SD0117 中層	口径 器高	9.4 1.3		外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部 4/12	内外面に墨画 人面ほか	010-01
20	土師器	小皿	SD0117 中層	口径 器高	8.1 1.4		外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ	密	良	浅黄橙10YR8/3	口縁部 5/12	内面底部に墨書	010-02
21	陶器	椀 (山茶椀)	SD0117 中層	底径 残高	3.9 2.6		外面：ロクロナデ、貼付高台、 糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	浅黄2.5Y7/3	底部 4/12	内面に墨痕 外面底部に墨痕	011-04
22	土製品	輪羽口	SD0117 中層	残存長	5.2		外面：ナデ	やや 密	良	灰白2.5YR/2	小片	被熱による赤変あり	013-07
23	鉄製品	釘	SD0117 中層	残存長	2.1		—	—		—	小片		013-10
24	土師器	小皿	SD0117 上層	口径 器高	8.3 1.5		外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/2	完形	粘土接合痕	004-011
25	土師器	小皿	SD0117 上層	口径 器高	8.2 1.3		外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ	密	良	橙5YR7/6	注記 完形	粘土接合痕	004-012
26	土師器	小皿	SD0117 上層	口径 器高	8.7 1.4		外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ	密	良	橙7.5YR7/6	注記 完形	粘土接合痕 底部ワラ痕跡	005-03
27	土師器	小皿	SD0117 上層	口径 器高	8.7 1.7		外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ	密	良	灰白10YR8/2	完形	粘土接合痕	005-05
28	土師器	小皿	SD0117 上層	口径 器高	9.6 1.5		外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ	密	良	浅黄橙7.5YR8/6	口縁部 10/12	粘土接合痕	004-001
29	土師器	小皿	SD0117 上層	口径 器高	7.8 1.6		外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ	密	良	浅黄橙10YR8/3	口縁部 11/12	粘土接合痕	004-014
30	土師器	小皿	SD0117 上層	口径 器高	8.7 1.5		外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/2	注記 完形		005-06
31	土師器	小皿	SD0117 上層	口径 器高	8.8 1.6		外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	完形		004-013
32	土師器	小皿	SD0117 上層	口径 器高	8.3 1.6		外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ	密	良	浅黄橙10YR8/4	注記 完形	粘土接合痕	004-010
33	土師器	小皿	SD0117 上層	口径 器高	8.3 1.4		外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ	密	良	灰白10YR8/2	完形	粘土接合痕	004-015
34	ロクロ 土師器	小皿	SD0117 上層	口径 器高	8.3 1.2		外面：ロクロナデ、ナデ、糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	橙5YR7/6	注記 完形		005-04
35	ロクロ 土師器	小皿	SD0117 上層	口径 器高	8.2 1.7		外面：ロクロナデ、糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	浅黄橙10YR8/3	口縁部 9/12		004-016
36	ロクロ 土師器	小皿	SD0117 上層	口径 器高	8.3 1.7		外面：ロクロナデ、糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	にぶい黄橙10YR6/4	口縁部 4/12		004-006
37	ロクロ 土師器	杯	SD0117 上層	口径 器高	13.5 3.5		外面：ロクロナデ、糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	黄橙10YR8/6	口縁部 2/12		003-03

第Ⅴ－3表　第171次調査　遺物観察表（1）

番号	器種	器形	地区 遺構	法量（cm）	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
38	土師器	皿	SD10117 上層	口径 15.2 器高 2.7	外面：ナデ，オサエ後ナデ 内面：ナデ，ナデ	密	良	浅黄橙10YR8/4	口縁部 11/12	粘土接合痕	004-005
39	土師器	皿	SD10117 上層	口径 14.7 器高 3.1	外面：ナデ，オサエ後ナデ 内面：ナデ，ナデ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	注正 完形		004-004
40	土師器	皿	SD10117 上層	口径 13.2 器高 2.8	外面：ナデ，オサエ後ナデ 内面：ナデ，ナデ	密	やや不良	浅黄橙10YR8/4	口縁部 5/12	粘土接合痕	004-003
41	土師器	皿	SD10117 上層	口径 14.9 器高 2.6	外面：ナデ，オサエ後ナデ 内面：ナデ，ナデ	やや粗	良	浅黄橙10YR8/4	完形	口縁端部に油煙	003-01
42	ロクロ土師器	台付皿	SD10117 上層	口径 9.5 器高 3.3 底径 5.8	外面：ロクロナデ，貼付高台，糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	浅黄橙10YR8/4	口縁部 7/12		005-07
43	ロクロ土師器	台付皿	SD10117 上層	口径 9.4 器高 3.0 底径 5.1	外面：ロクロナデ，貼付高台，糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	橙7.5YR7/6	注正 完形		005-01
44	陶器	椀（山茶椀）	SD10117 上層	底径 7.4 残高 3.8	外面：ロクロナデ，貼付高台，糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	浅黄2.5Y7/3	底部 11/12		003-02
45	白磁	椀	SD10117 上層	口径 15.7 残高 4.6	外面：ロクロナデ，ロクロケズリ 内面：ロクロナデ，施釉	密	良	素地：灰黄2.5Y6/2 釉：灰黄2.5Y7/2	口縁部 2/12		011-06
46	土師器	小皿	SD10117 上層	口径 9.1 器高 1.1	外面：ナデ 内面：ナデ	密	良	浅黄橙10YR8/4	口縁部 3/12	墨書・ひらがな 内面「ぬるをわか」 外面「つねなら」	012-01
47	鉄製品	釘	SD10117 上層	残存長 3.8	—	—	—	—	—		013-09
48	土師器	小皿	SD10118 下層	口径 8.4 器高 1.3	外面：ナデ，オサエ後ナデ 内面：ナデ，オサエ後ナデ	密	良	浅黄橙10YR8/3	注正 完形		008-10
49	土師器	小皿	SD10118 下層	口径 9.7 器高 1.9	外面：ナデ，オサエ後ナデ 内面：ナデ，オサエ後ナデ	密	良	灰白10YR8/2	口縁部 10/12		008-07
50	土師器	小皿	SD10118 下層	口径 9.6 器高 2.1	外面：ナデ，オサエ後ナデ 内面：ナデ，オサエ後ナデ	密	良	灰白10YR8/2	注正 完形		008-08
51	土師器	小皿	SD10118 下層	口径 9.0 器高 1.9	外面：ナデ，オサエ後ナデ 内面：ナデ，オサエ後ナデ	密	良	浅黄橙10YR8/3	注正 完形		008-06
52	土師器	小皿	SD10118 下層	口径 5.5 器高 2.0	外面：ナデ，オサエ後ナデ 内面：ナデ，オサエ後ナデ	密	良	浅黄2.5Y7/3	注正 完形	粘土接合痕	008-05
53	土師器	小皿	SD10118 下層	口径 8.6 器高 2.1	外面：ナデ，オサエ後ナデ 内面：ナデ，オサエ後ナデ	密	やや不良	淡黄2.5Y8/3	注正 完形		008-09
54	土師器	皿	SD10118 下層	口径 11.4 器高 2.5	外面：ナデ，オサエ後ナデ 内面：ナデ，オサエ後ナデ	やや密	やや不良	黄橙10YR8/6	口縁部 6/12	粘土接合痕 口縁部に油煙	008-04
55	土師器	小皿	SD10118 中層	口径 7.7 器高 1.5	外面：ナデ，オサエ後ナデ 内面：ナデ，オサエ後ナデ	密	良	淡橙5YR8/4	完形	粘土接合痕	007-02
56	土師器	小皿	SD10118 中層	口径 8.4 器高 1.5	外面：ナデ，オサエ後ナデ 内面：ナデ，オサエ後ナデ	密	良	橙5YR7/8	完形	粘土接合痕	007-05
57	土師器	小皿	SD10118 中層	口径 9.0 器高 1.5	外面：ナデ，オサエ後ナデ 内面：ナデ，オサエ後ナデ	密	良	外面：浅黄橙10YR8/3 内面：橙5YR7/6	注正 完形		007-03
58	土師器	小皿	SD10118 中層	口径 9.0 器高 1.7	外面：ナデ，オサエ後ナデ 内面：ナデ，オサエ後ナデ	密	良	浅黄橙7.5YR8/4	注正 完形	粘土接合痕	007-01
59	土師器	小皿	SD10118 中層	口径 8.8 器高 1.35	外面：ナデ，オサエ後ナデ 内面：ナデ，オサエ後ナデ	密	良	橙7.5YR7/6	注正 完形	粘土接合痕	007-04
60	土師器	皿	SD10118 中層	口径 13.0 器高 2.15	外面：ナデ，オサエ後ナデ 内面：ナデ，オサエ後ナデ	密	良	浅黄橙10YR8/4	口縁部 4/12		007-06
61	土師器	皿	SD10118 中層	口径 13.5 器高 2.5	外面：ナデ，オサエ後ナデ 内面：ナデ，オサエ後ナデ	密	良	明黄褐10YR7/6	注正 完形	粘土接合痕	007-07
62	土師器	台付小皿	SD10118 中層	口径 7.4 器高 2.75 底径 3.4	外面：ナデ，オサエ後ナデ，貼付高台 内面：ナデ，オサエ後ナデ	密	良	淡黄2.5Y8/4	底部 完形	内面底部に木の葉痕	007-08
63	陶器	片口鉢	SD10118 中層	口径 32.4 器高 10.9 底径 14.1	外面：ナデ，ロクロナデ，ケズリ，貼付高台，ナデ 内面：ナデ，ロクロナデ	密	良	浅黄2.5Y7/4	口縁部 10/12	歪みあり	009-01
64	土師器	皿	SD10118 上層	口径 14.8 器高 2.7	外面：ナデ，オサエ後ナデ 内面：ナデ，オサエ後ナデ	密	良	黄橙7.5YR7/8	完形	粘土接合痕	008-02
65	土師器	皿	SD10118 上層	口径 13.6 器高 3.0	外面：ナデ，オサエ後ナデ 内面：ナデ，オサエ後ナデ	密	良	明黄褐10YR7/6	完形	粘土接合痕	008-01
66	土師器	小皿	SD10118 上層	口径 8.6 器高 1.0	外面：ナデ，オサエ後ナデ 内面：ナデ，オサエ後ナデ	密	良	浅黄橙7.5YR8/4～10YR8/3	完形	粘土接合痕	008-03
67	鉄製品	刀子	SD10118 上層	残存長 13.8 幅 1.9	—	—	—	—	注正 完形		013-08
68	土師器	小皿	SD10119	口径 8.1 器高 1.1	外面：ナデ，オサエ後ナデ 内面：ナデ	密	良	浅黄橙10YR8/3	注正 完形		002-01
69	土師器	小皿	SD10119	口径 8.9 器高 1.5	外面：ナデ，オサエ後ナデ 内面：ナデ	密	良	浅黄橙10YR8/4	注正 完形	粘土接合痕	002-06
70	土師器	小皿	SD10119	口径 9.1 器高 1.2	外面：ナデ，オサエ後ナデ 内面：ナデ	密	良	浅黄橙10YR8/4	完形	粘土接合痕	002-05
71	土師器	小皿	SD10119	口径 7.6 器高 1.7	外面：ナデ，オサエ後ナデ 内面：ナデ	密	良	橙7.5YR7/6	完形		002-03
72	土師器	小皿	SD10119	口径 8.2 器高 1.6	外面：ナデ，オサエ後ナデ 内面：ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	注正 完形	粘土接合痕	002-02
73	土師器	小皿	SD10119	口径 8.4 器高 1.6	外面：ナデ，オサエ後ナデ 内面：ナデ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	注正 完形	粘土接合痕	002-04
74	土師器	皿	SD10119	口径 14.6 器高 2.5	外面：ナデ，オサエ後ナデ 内面：ナデ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部 3/12		002-08
75	土師器	皿	SD10119	口径 16.0 器高 2.6	外面：ナデ，オサエ後ナデ 内面：ナデ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部 3/12	内面底部に螺状痕跡	002-07

第Ⅴ－4表　第171次調査　遺物観察表（2）

番号	器種	器形	地区遺構	法量（cm）	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
76	陶器	椀（山茶椀）	SD10119	口径 7.2 高 2.3	外面：ロクロナデ、貼付高台、赤彩痕 内面：ロクロナデ	密	良	灰黄2.5Y7/2	底部完形	外面底部に桐殻痕	002-09
77	土師器	小皿	SD10119	口径 8.0 高 1.6	外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ	密	良	浅黄橙10YR8/4	完形	外部底面に墨書	010-03
78	土師器	小皿	SK10262	口径 7.35 高 1.25	外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ、オサエ後ナデ	密	良	橙5YR6/8	口縁部6/12		001-06
79	土師器	皿	SK10262	口径 15.0 高 2.5	外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ、オサエ後ナデ	密	やや良	明黄褐10YR7/6	口縁部3/12	粘土接合痕	001-05
80	土師器	小皿	SK7662	口径 9.6 高 1.8	外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ	密	やや良	黄橙10YR7/8	口縁部6/12		001-04
81	土師器	杯	SK7662	口径 14.0 高 3.5	外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ、オサエ後ナデ	密	やや良	浅黄2.5Y8/3	口縁部3/12		001-03
82	土師器	小皿	SD10263	口径 8.4 高 1.15	外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ、オサエ後ナデ	密	良	浅黄橙10YR8/4	口縁部3/12		001-08
83	土師器	小皿	SD10116	口径 8.3 高 1.4	外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ、オサエ後ナデ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部6/12	粘土接合痕	001-07
84	石製品	白玉石	SD10116	径 1.6 厚 0.6	外面：研磨	—	—	灰白2.5YR/2	完形	碁石？ 重量1.97g	013-06
85	土師器	小皿	包含層	口径 9.2 高 1.3	外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部5/12	内外面に墨書人面か？	010-04
86	土師器	小皿	r20包含層	口径 8.5 高 1.0	外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ	密	良	灰白10YR8/2	口縁部3/12	外面に墨書記号？	010-05
87	石製品	白玉石	r20包含層	径 1.3 厚 0.6	外面：研磨	—	—	灰白2.5YR/2	完形	碁石？ 重量0.65g	013-05
88	石製品	白玉石	s19包含層	径 2.8 厚 1.9	外面：研磨	—	—	灰白2.5Y～浅黄2.5Y7/3	完形	碁石？ 重量1.93g	013-04
89	土製品	玉	s20包含層	直径 2.4	外面：ナデ	密	良	浅黄2.5Y7/3～黄灰2.5Y4/1	注ぼ完形	重量12.51g	013-03

第Ⅴ－５表　第171次調査　遺物観察表（３）

る。60・61は土師器皿。62は土師器台付皿で、内面底部に木の葉圧痕が残る。脚部の接合は指頭圧痕や爪痕がはっきりと残り、整形はやや粗雑である。63は陶器の片口鉢。口縁部の１／４毎に輪花が表現され、１つの部分が片口にあたる。内面底部は使用痕が認められる。斎宮Ⅲ－３期に相当する。

ＳＤ10118上層出土遺物（64～67）　64・65は土師器皿で、ともに外面に粘土接合痕が残る。66は土師器小皿で、器壁は薄い。67は刀子で、全長138cm・幅1.9cmで、ほぼ完形のもの。斎宮Ⅲ－３期に相当する。

ＳＤ10119出土遺物（68～77）　68～73は土師器小皿で、外面には指頭圧痕や粘土接合痕が残る。74・75は土師器皿。75は内面底部に藁状の痕跡が残る。76は陶器椀（山茶椀）で、高台底部に籾殻痕が残る。77は土師器小皿で、外面底部に墨書が見られる。斎宮Ⅲ－３期に相当する。

ＳＫ10262出土遺物（78・79）　78は土師器小皿で、器壁は薄い。79は土師器皿で口縁部はやや肥厚する。外面体部に粘土接合痕が残る。斎宮Ⅲ－３期のもの。

ＳＫ7662出土遺物（80・81）　80は土師器小皿。斎宮Ⅲ－３期以降のものか。81は土師器杯で、口縁部は外反する。混入と考えられる。

ＳＤ10263出土遺物（82）　土師器小皿。底部は平底で、口縁部は肥厚する。斎宮Ⅲ－２～３期のもの。

ＳＤ10116出土遺物（83・84）　83は土師器小皿で、口縁部は肥厚する。84は白玉石で表面は研磨されている。碁石の可能性も考えられる。

包含層（85～89）　85・86は墨書土器で、土師器小皿。85は内外面に絵画が描かれている。人面であろうか。86は外面底部に絵画もしくは記号が描かれる。87・88は白玉石。表面は研磨され、碁石の可能性も考えられる。89は土玉で、一部に工具状の痕跡が残る。これらは平安時代後期の溝の上部より出土しており、斎宮Ⅲ－３期頃のものと考えられる。

５　まとめ

（１）平安時代後期の溝について

平安時代後期になると、鍛冶山西区画で内院の機能が失われるのに対し、牛葉東区画には内院の機能が集約され、区画内を細分する溝が出現する。今回確認したＳＤ10116～10119は、区画の北東部を区切る溝と考えられる。これらは、斎宮Ⅲ－２期以降に埋没が始まり、鎌倉時代初頭には完全に埋没する。埋土には多量の土器が廃棄されており、調査面積は37㎡でありながら、整理箱で194箱分の遺物が出土した。東隣の第163次調査でも24㎡の調査範囲ながら170箱の遺物が出土している。遺物のほとんどはこれら区画を細分する溝から出土し、その大半は土

師器皿・小皿である。また、墨書土器や陶枕、サイコロ・碁石と思われる遺物なども多数含まれ、これらは平安時代後期から末期にかけて牛葉東区画内で儀式や饗宴など活発な活動を示すものであろう。

(2)平仮名「いろは歌」墨書土器(46)について

①文字の解釈

墨書は、内面に「ぬるをわか」、外面に「つねなら」の9文字が判読でき[1]、「いろは歌」の一部にあたる。いずれも平仮名で、続き文字ではなく、一文字づつ区切った散らし文字で書かれている。

内面の「ぬ・る」は繊細な筆遣いがわかる良好な文字。「を(逢)」は、「き(支)」や「よ(与)」の可能性もある。「わ・か」は、上記の3文字に比べてやや細い。特に「か」は、土器の屈曲面に書いているためか、文字が小さく、丁寧さも見られない。このほか、「ぬ・る」の右側にも数文字の墨痕が確認できるが、判読はできない。「ぬ」の右上の墨痕は、文字としては小さいが「り」となる可能性もある。

外面について、「つ」は上方からの続きの筆跡が見られるが、下半部のみで「つ」と判断した。「ね」は「年」の崩し字がやや左に傾いたものか。「な」も大部分が欠損しているため、文字の全容は不明。末尾の返しは確認できなかったが、「な」の可能性が高いと考えた。「ら」も上半部の墨痕が薄いが、下半部の筆跡から「ら」と判断した。外面の文字については、内面のような筆跡の丁寧さは無く、難解な文字となっており、内面と外面に別人の筆跡である可能性も考えられる。また、「つ」が前文字からの続きとなっていること、「な」の末尾の返しが確認できなかったことなど、文字の解釈についても疑問点が残る。「つねなら」ではなく、「みのおく」もしくは「うゐのお」である可能性も考えられ、文字の解釈については、今後も慎重な検討が必要である。

②土器の時期

この土器は、平安時代後期の溝のうち、SD10117の上層から出土した。溝は斎宮Ⅲ－2期から埋没が始まったとみられるが、出土遺物の大半は斎宮Ⅲ－3期の土器で占められている。

斎宮Ⅲ期後半については、これまでも編年における問題点が指摘されてきた。竹内美昭氏は、第143次調査で確認した平安時代後期～鎌倉時代の遺構資料をもとに、斎宮Ⅲ－3期の標式資料を補強し、中世的な土器様相を示す一群をもって斎宮Ⅳ－1期を、斎宮Ⅲ－3期とⅣ－1期の間に連続性が薄いことから斎宮Ⅲ－4期の設定を提唱している[2]。

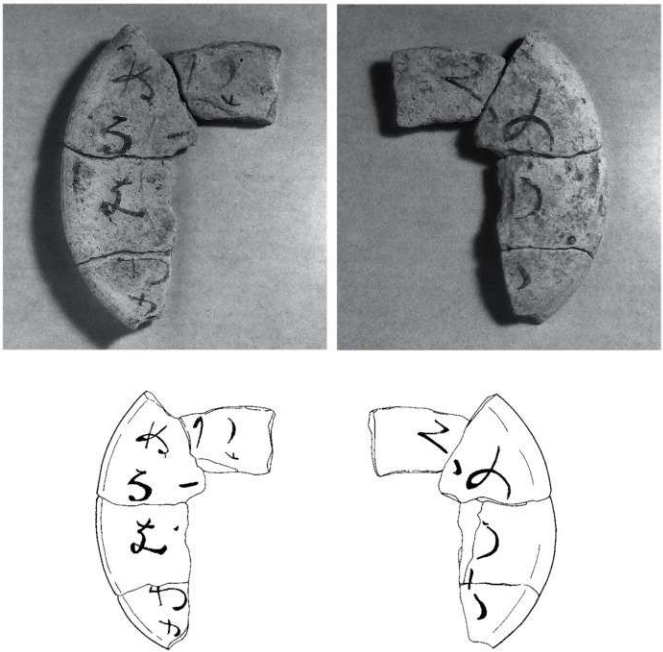
斎宮歴史博物館では斎宮Ⅲ～Ⅳ期の土器編年の再検討を進めており、その成果は別途報告する予定である。これらの資料と照らし合わせても、今回の墨書土器は、口径9.1cmとやや大型の小皿で、底部が丸みを帯びていないこと、共伴する土師器皿も大型化が進み底部から口縁部にかけて丸みを帯びる形状であること、12世紀後半には減少するロクロ土師器がまだ含まれていることなど、従来の編年観でも斎宮Ⅲ－3期の古い様相を示しており、SD10117の土器群は11世紀後期後葉から12世紀前半に相当するものと考えられる。

③平仮名「いろは歌」墨書出土の意義

斎宮跡からは、これまでに約70点の平仮名墨書土器が出土しており、そのほとんどは内院に推定されている牛葉東区画や鍛冶山西区画から出土している[3]。今回出土した土器は、繊細な筆跡や、この内院想定地から出土していることから、斎王に仕える女官が書いたものと考えられる。土器の両面に書かれていることや、平仮名が一文字づつ書かれていることから、文字の習書として書かれた可能性が高い。

現存する最古の「いろは歌」は、承暦3(1079)年に書かれた『金光明最勝王経音義』に見られ、巻初は万葉仮名で、巻末は片仮名で書かれている。今回出土したものは、11世紀後期後葉から12世紀前半のものであり、「いろは歌」が成立してから比較的早い段階で斎宮に伝わっていた可能性が考えられる。

斎王周辺には、命婦や乳母など都から付き従った高位の女性が存在している。永保三年(1083)には媞子内親王歌合が開催されていることや、「西本願寺本三十六人家集」の筆者の一人である藤原道子や歌人でもある甲斐が斎王に随行していることからも、斎王周辺には高い文化的空間が形成されていたことが窺える。こうしたことからも、斎宮には都の文化がいち早く伝わっていた可能性があり、「いろは歌」も同様に伝えられたものであろう。今回の「いろは歌」を書いた人物は、土器に習書していることから、下級の女孺など比較的身分の低い女官が考えられ、



第Ⅴ－４図　第171次調査　平仮名「いろは歌」墨書土器赤外線写真・遺物実測図（1：1）

高い教養を持った女官から「いろは歌」を通じて、文字などの教養を学んでいた可能性が考えられる。

平仮名「いろは歌」墨書土器の出土は、「いろは歌」や平仮名の普及過程を考える上で重要であるとともに、斎宮の文化的先進性を示すものであろう。

【註】

（1）文字の判読にあたっては、所京子氏（岐阜聖徳学園大学名誉教授）・藤本孝一氏（龍谷大学客員教授）の指導を受けた。

（2）竹内美昭「第143次調査」『史跡斎宮跡　発掘調査概報』斎宮歴史博物館、2006

（3）小演学「斎宮跡出土平仮名墨書土器の現状と課題」『斎宮歴史博物館　研究紀要十四』斎宮歴史博物館、2005

写真図版Ⅴ－１　第171次調査　遺構（1）

調査区全景（南から）

調査区全景（西から）

ＳＤ 10117 ～ 10119（東から）

ＳＤ 10117 ～ 10119 土層断面（東から）

写真図版Ⅴ－３　第171次調査　遺物（１）

5

11

26

34

40

41

42

43

54

58

59

61

64

65

17

63

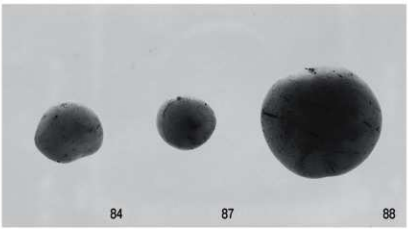
20

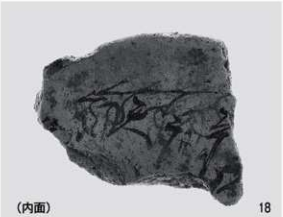
77

（内面）　85

（外面）　85

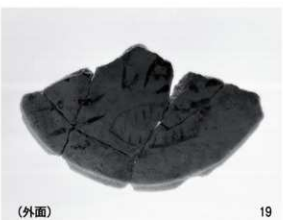
62


84　87　88


（内面）　18

（外面）　18

（内面）　19


（外面）　19

86

9　15　14
白磁　45　16

67

報 告 書 抄 録

ふ り が な	しせきさいくうあと　へいせいにじゅうにねんどはっくつちょうさがいほう
書　　名	史跡斎宮跡　平成22年度発掘調査概報
副　書　名	
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	
シリーズ番号	
編 著 者 名	新名　強
編 集 機 関	斎宮歴史博物館
所　在　地	〒515-0325　三重県多気郡明和町竹川503　TEL0596-52-7027
発 行 年 月 日	西暦　2012年　3月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
さいくうあと 斎宮跡	たきぐん　めいわちょう 多気郡　明和町 さいくう　たけがわ 斎宮・竹川	24442	210	34° 31′ 55″ ～ 34° 32′ 30″	136° 36′ 16″ ～ 136° 37′ 37″	20100517 ～ 20101118	537㎡ (第167次) 239㎡ (第168次) 71㎡ (第169次) 37㎡ (第171次)	学術調査

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
斎宮跡第167次	官　衙	奈良　平安 鎌倉以降	掘立柱建物 井戸・土坑 溝	土師器　須恵器 灰釉陶器　緑釉陶器 輸入陶磁　石製紡錘車	柳原区画北東部
斎宮跡第168次	官　衙	奈良　平安 鎌倉以降	掘立柱建物 土坑・溝 区画道路	土師器　須恵器 灰釉陶器　緑釉陶器 墨書土器	下園東区画南辺部 区画道路
斎宮跡第169次	官　衙	近世以降	溝	土師器	区画道路部分
斎宮跡第171次	官　衙	平安	土坑・溝	土師器　須恵器 灰釉陶器　輸入陶磁 墨書土器　白玉石	牛葉東区画北東隅

要　　約	第167次調査では、柳原区画の北東部で平安時代を中心とする掘立柱建物を多数確認した。第168次調査では、方格地割の東西区画道路北側溝および下園東区画南辺の建物群を確認した。第169次調査では御館区画南西端で調査を行ったが、後世の削平のために、遺構を確認することはできなかった。第171次調査では牛葉東区画内を細分する平安時代後期以降の溝を確認し、「いろは歌」や人面などの墨書土器を含む大量の土器が出土した。

史 跡 斎 宮 跡
平成 22 年度
発 掘 調 査 概 報
2012 年 3 月 30 日
編集・発行　斎宮歴史博物館
印　　刷　株式会社　アイプレーン